



平成29年度 東京都小学校体育研究会

夏季合同研究会

研究主題

三つの資質・能力の関係性を明確にし、
運動や健康についての課題に
主体的・協働的に取り組む児童の育成

各領域部会資料

- ・ 器械運動系領域部会
- ・ 陸上運動系領域部会
- ・ ボール運動領域部
- ・ 多様な動きをつくる運動(遊び)部会
- ・ 水泳系領域部会
- ・ 保健領域部会
- ・ 体育的活動領域部会
- ・ 体力を高める運動領域部会
- ・ ゲーム領域部会
- ・ 表現運動系領域部会

平成29年8月23日(水)

江東区立豊洲西小学校

平成29年度 東京都小学校体育研究会夏季合同研究会 器械運動系領域部会

東京都小学校体育研究会 研究主題

三つの資質・能力を明確にし、
運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成

東京都小学校体育研究会 研究の視点

- 1 三つの資質・能力の具体的な学習状況
- 2 三つの資質・能力の関係性を踏まえた学習過程の在り方
- 3 三つの資質・能力を育むための指導と評価

器械運動系領域部会 目指す児童像

粘り強く意欲的に課題解決に取り組み、仲間と共に課題を解決して、
できる楽しさや喜びを味わうことのできる児童

器械運動系領域部会 研究仮説

第3学年の器械運動の学習において、低学年とのつながりを大切にした学習過程と学習の仕方を身に付ける指導を工夫すれば、児童は友達と共に課題解決に取り組み、できる楽しさや喜びに触れることができるだろう。

【本日の講師】

東大和市立第九小学校

副校長 富田 和己 先生

【実証授業】

授業日：平成29年10月12日（木）

場 所：杉並区立高井戸東小学校

最寄駅：京王井の頭線 高井戸駅 徒歩7分

京王線 八幡山駅 徒歩15分

授 業：第3学年 マット運動

授業者：堀友 泰孝 主任教諭

1 研究の内容

(1) 研究の視点1「三つの資質・能力の具体的な学習状況」

①器械運動系領域部会 目指す児童像

粘り強く意欲的に課題解決に取り組み、友達と共に課題を解決して、できる楽しさや喜びを味わうことのできる児童

②器械運動系領域部会 研究仮説

第3学年の器械運動の学習において、低学年とのつながりを大切にした学習過程と学習の仕方を身に付ける指導を工夫すれば、児童は友達と共に課題解決に取り組み、できる楽しさや喜びに触れることができるだろう。

できる楽しさや喜び …単に技や動きができたというものではなく、技のポイントや運動の行い方を知り、理解した技について、めあてをもって取り組んで技ができたときに味わえるもの

- できる**
- ・できなかった技や動きができる (技や動きの習得)
 - ・できる技や動きがより上手になる (技や動きの習熟)
 - ・易しい条件の場での動きができる (めあての達成) ※めあて=技+技のポイント

③研究の視点1「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

- 「知識及び技能」の「知識」は、技能に関する知識 (技の行い方やポイント、練習の仕方等) を理解している姿を具体的な学習状況として捉える。「技能」では、それぞれの運動を行うための基本的な動きや技を身に付けている姿を具体的な学習状況として捉える。
- 「思考力,判断力,表現力等」では、課題解決的な学習 (課題を見付けるー課題を解決するための活動を選ぶー課題の解決のために考えたことを友達に伝えながら活動するー学習を振り返る) を通して、思考し、判断したことを表現している姿を具体的な学習状況として捉える。
- 「学びに向かう力,人間性等」では、運動に進んで取り組み、きまりを守り、誰とでも仲よく励まし合っ て運動したり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全を確かめたりしている姿を具体的な学習状況として捉える。

第3学年 単元名「マット運動」における具体的な子供の姿 (例)

知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った技の行い方や技のポイントを理解している。 ・基本的な技の練習の仕方を理解している。 ・技に関連した易しい運動遊びや易しい場や条件のもとで技や動きができる。 ・基本的な回転技や倒立技に取り組み、技ができる。 ・できる技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の動きと資料や友達の動き等と比べて考え、自分の課題を見付けている。 ・学習カードや掲示物などを活用して活動を選んでいる。 ・技のできばえを振り返り、次の課題を見付けている。 ・資料と比べ、友達の動きを見てできばえを伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技ができるようになるために、練習に進んで取り組んでいる。 ・粘り強くあきらめずに取り組んでいる。 ・マット運動のきまりを守り、グループで励まし合っ て技の練習をしている。 ・マット運動の準備や片付けを、友達と一緒にしている。 ・技がうまくできたときの行い方や気付いたことなど伝える際に、友達の考えを認めている。 ・場の危険物を取り除いたり、器械・器具の安全を確かめたりするとともに、試技の開始前の安全を確かめている。

(2) 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性を踏まえた学習過程の在り方」

育む三つの「資質・能力」を明確にし、その関係性を明らかにするとともに、学習過程や一単位時間の学習の中で、どのような順序や重点を置いて指導していくのかを考えていく。

第3学年 マット運動 学習過程

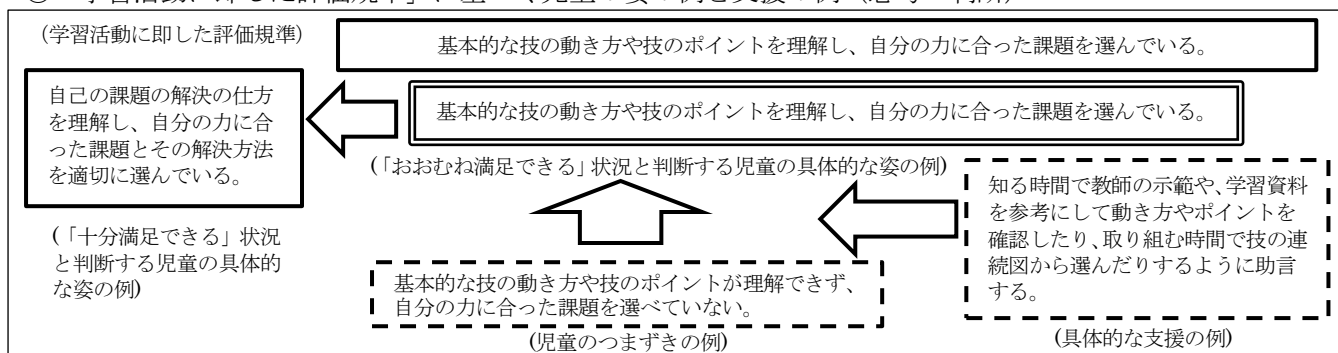
設定した時間 (運動遊び・技) 【重点】

時	1	2	3	4	5	6	7
学習内容	持っている力で取り組む時間 (マットを使った運動遊び) 【学びに向かう力・人間性】	取り組む時間 (前転) 【知・技】	知る時間 (後転) 【知・技】 【学びに向かう力・人間性】	取り組む時間 (後転) 【知・技】	知る時間・取り組む時間 (腕立て横跳び越し) 【知・技】	自分の課題に取り組む時間 (側方倒立回転グループ) 【思・判・表】 【学びに向かう力・人間性】	自分の課題に取り組む時間 (選択) 【思・判・表】
	知る時間 (前転) 【知・技】	自分の課題に取り組む時間 (前転グループ) 【思・判・表】	取り組む時間 (後転) 【知・技】	自分の課題に取り組む時間 (後転グループ) 【思・判・表】	知る時間・取り組む時間 (壁倒立) 【知・技】	自分の課題に取り組む時間 (倒立グループ) 【思・判・表】 【学びに向かう力・人間性】	

(3) 研究の視点3 「三つの資質・能力を育むための指導と評価」

第3学年の器械運動における評価規準を具体的な児童の姿で明らかにし、観点別評価を進め、指導と評価を一体とした手立てを提案する。

◎「学習活動に即した評価規準」に基づく児童の姿の例と支援の例（思考・判断）



(4) 研究主題に迫る手だてについて

器械運動は、学習の仕方を指導することで、課題の解決の方法やグループ学習の方法を身に付けやすいと本部会は考える。そこで、器械運動の入り口である第3学年で、時間をかけて学習の仕方を学ぶことが今後の器械運動や他の領域での学習に効果的であると考えた。

①課題解決的な学習の展開

本部会では、課題を見付け、その解決に向けた学習に取り組む際に、グループ学習（めあてを伝え、友達同士でしっかりと見合い、技のできばえを具体的に伝え合う等）をすることが技の習得・習熟につながると考えており、この学びが主体的・対話的で深い学びの過程であると捉えている。その際に大切になってくるのが、自己評価活動である。

自己評価活動とは、めあての設定→取り組み→振り返り・修正→新たなめあての設定・・・というサイクルでの評価活動である。(H16 東京の教育 21 より)

自己評価活動の例：第3学年 マット運動

学習場面	学習活動	○教師の支援 ☆友達との関わり
設定	1 学習資料にある吹き出しのポイントからめあてを選択する。 ◎めあて：技名+技のポイント	○自分ができそうな技を選び、学習資料から技のポイントを選択させる。 ○学習ノートから児童のめあてを確認する。
取り組む時間	2 めあてを伝える。	○技に取り組む前に友達に自分のめあてを伝えるようにさせる。 ☆友達に言われたポイントをしっかりと見る。
	3 取り組んで、できばえを確認する。	○同じグループの児童に、見るポイントを一緒に確認する。 ☆自分の見ていた友達が、どこがどのようにできていたか具体的に伝える。
	4 新たなめあてを選択したり、修正したりする。	○できていたこととできていないことを確認させ、できている場合は新たなめあてを選択させる。 ☆課題解決のために考えたことを伝え合う。
振り返り	5 2～4をグループで繰り返し取り組む。	
	6 振り返り項目に○印を付ける。	○児童の発言や学習ノートの記述から、よいものを全体で共有化し、価値付ける。
	7 どうしたらできたのか、できなかった時には、どこまでできたのかを書く。 8 次の時間のめあてを選択する。	○グループ学習が上手にできていたグループを称賛する。

②低学年とのつながりを大切にした器械運動の導入

	低学年で学習した内容	つながり	中学年の学習内容
技能	・基本的な動き ・基礎となる感覚 ・マットを使った運動遊び	・今もっている力で取り組む時間（マットを使った運動遊び等） ・運動遊びの動きと技とを比べながら技のポイントを知る活動	・技に関連した易しい運動遊び ・基本的な回転技や倒立技
態度	愛好的態度（進んで取り組むこと）、公正・協力、責任・参画（グループ活動や準備・片付けでの役割）、健康・安全		
思考・判断	・楽しく遊ぶための場や遊び方を選ぶ ・友達のよい動きを見付ける	・学習資料からめあてを選択する ・固定グループで学習しながら、できばえを伝え合う	・活動する場を選ぶ ・友達の技のできばえを伝える

③学習の仕方を身に付ける

・器械運動の始まりにあたり、課題を見付け、その解決に向けた学習の流れやグループ学習の方法について時間をかけて経験させ、指導することで課題解決的な学習の仕方を身に付けさせる。

2 学習指導案 第3学年 マット運動

(1) 単元の目標

技能	基本的な回転技や倒立技をすることができるようにする。
態度	マット運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
思考・判断	自己の能力に適した課題をもち、技ができるようになるための活動を工夫できるようにする。

(2) 単元の評価規準

観点	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
運動への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、きまりを守り、仲よく運動をしようしたり、運動する場や器械・器具の安全を確かめようとしていたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①できる楽しさや喜びに触れることができるよう、マット運動に進んで取り組もうとしている。 ②器械・器具の使い方や運動の行い方のきまりを守り、友達と励まし合って運動をしようとしている。 ③友達と協力して、器械・器具の準備や片付けをしようとしている。 ④運動する場や器械・器具の使い方などの安全を確かめようとしている。
運動についての 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技の動き方や技のポイントを知るとともに、自分の力に合った課題を選んでいる。 ・基本的な技の練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。 ・課題を解決するために考えたことを友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基本的な技の動き方や技のポイントを理解し、自分の力に合った課題を選んでいる。 ②学習カードや資料などをもとに基本的な技の練習の仕方を理解し、自分の力に応じた練習方法や練習の場を選んでいる。 ③技に取り組んでみて考えたことや、技のできばえを友達に伝えている。
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った基本的な回転技や倒立技ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基本的な回転技に取り組み、自己の能力に適した技ができる。 ②基本的な倒立技に取り組み、自己の能力に適した技ができる。

(3) 単元の指導と評価の計画

時間	1	2	3	4	5	6	7
学習内容・活動	<p>今もっている力で 取り組む時間</p> <p>○マットを使った運動遊び ・いろいろな動きに楽しく取り組む ※マットの運び方などの約束を確認する</p>	<p>今もっている力で取り組む時間 ・マットを使った運動遊びの基本的な動きに取り組む ・第3学年で学習した技に取り組む</p>					
	<p>知る時間</p> <p>○前転 ①前転がりに取り組む ②前転がりと前転を比較し、違いに気付く ③ポイントを知る</p>	<p>取り組む時間</p> <p>○前転 ◆グループ学習の行い方を知る ①技に取り組む ・ポイントができるか1つずつ確認していく ◆学習の流れを知る ・技を選ぶ ・ポイントを選ぶ ②自分の力に合っためあてを選ぶ ③課題を解決するための練習方法や練習の場を知る</p>	<p>知る時間</p> <p>○後転 ①後ろ転がりに取り組む ②後ろ転がりと後転を比較し、違いに気付く ③ポイントを知る</p>	<p>取り組む時間</p> <p>○後転 ③課題を解決するための練習方法や練習の場を知る</p>	<p>知る時間</p> <p>○腕立て横跳び越し ①支持での川跳びに取り組む ②支持での川跳びと腕立て横跳び越しを比較し、違いに気付く ③ポイントを知る</p>	<p>知る時間</p> <p>○腕立て横跳び越し ①自分の力に合っためあてを確認する ②技に取り組む ・めあてを伝える ・できばえを確認する ※技ができていない児童には技を繰り返したり、発展技に取り組ませたりする</p>	<p>知る時間</p> <p>○壁倒立 ①壁登り逆立ちに取り組む ②壁登り逆立ちと壁倒立を比較し、違いに気付く ③ポイントを知る</p>
学習活動に即した評価規程	運動への関心・態度	③	②			④	
	運動についての思考・判断		③	①	②		
	運動の技能					②	①

(4) 各時間に設定した学習活動について

今もっている力で取り組む時間

<第1時>

○マットを使った運動遊び

・いろいろな動きに楽しく取り組む。

※マットの運び方などの約束を確認する。

<第2時～第7時>

○主運動を行うために、体を慣らしたり、あたためたり、器械・器具に慣れたりする。

○マットを使った運動遊びの基本的な動きや第3学年で学習した技に取り組む。

知る時間

①マットを使った運動遊びの基本的な動き（例 前転がり）に取り組む。

②マットを使った運動遊びの基本的な動き（例 前転がり）と第3学年で学習する技（例 前転）を比較し、違いに気付く。

③技のポイントを知る。

※第3学年で学習する技は、今もっている力で取り組む時間でできていた児童を意図的に選び、発表させる。

※児童の気付きについては称賛し、技のポイントとなるものは吹き出しで掲示する。

※技のポイントが児童から出てこない場合は、見る視点を与え、ポイントに気付かせる。

取り組む時間

①技に取り組む

- ・ローテーションで取り組み、ポイントが1つずつできるかを確認していく。
- ・自分の状態を知り、自分の課題が分かる。

◆グループ学習の行い方を知る。

第3学年という発達段階と器械運動で初めてグループ学習を行うことを考慮し、3～4人の固定グループで活動する。

グループ編成（固定グループとめあて別グループ）のメリット・デメリット

固定グループ

○グループを変えないことで単元を通してお互いの伸びが分かりやすい。

△グループ内に異なるポイントを選んだ児童がいるため、技のポイントに応じた練習方法を設定する必要がある。

めあて別グループ

○見合うポイントが1つなので見る児童は、めあてに対する声掛けがしやすい。

△めあてが変わるたびにグループ編成をし直す必要がある。

②自分の力に合っためあてを選ぶ

◆学習の流れを知る

- ・めあての選び方（自分の状態をもとに取り組む**技**と**技のポイント**を選ぶこと）を知る。
- ・学習カードの使い方を知る。

③課題を解決するための、練習方法や練習の場を知る。

自分の課題に取り組む時間

①技に取り組む

取り組む児童

・めあてを伝える。

・取り組み終わったら、見ていた児童に自分の動きについて聞く。

見る児童

・取り組む児童のめあてができているか確認できる位置を見て、取り組んだ児童の動きのできばえを伝える。

※グループの友達が、どこがどのようにできているのか具体的に伝えるようにさせる。

※めあてができるようになった児童は、先生に確認してもらい、新たなめあてを選んだり、それらの発展技に取り組んだり、技を繰り返したり組み合わせたりする。

(5) 本時の学習 7時間扱い【第3時】

①ねらい ※本時は主として「思考・判断」を評価する。

【技能】 基本的な回転技に取り組み、自己の能力に適した技ができるようにする。

【態度】 できる楽しさや喜びに触れることができるよう、マット運動に進んで取り組むことができるようにする。

【思考・判断】 基本的な技の動き方や技のポイントを理解し、自分の力に合った課題を選ぶことができるようにする。

②展開

児童の学習活動	○教師の支援 ☆評価（評価方法）
(1) 集合・整列・挨拶 (2) 学習の流れの確認 (3) 場の準備 (4) 準備運動 (5) 今もっている力で楽しむ時間 ・ゆりかご ・大きなゆりかご ・前転がり ・前転 ・後ろ転がり など (6) 知る時間 後転	○服装の確認をする。 ○安全に気を付けて、声を掛け合いながら準備させる。 ○音楽に合わせて楽しく行いながら、一つ一つの部位を意識できるように言葉掛けをする。
後転の技のポイントを知り、取り組もう。	
①後ろ転がりに取り組む。 ②後ろ転がりとは後転を比較し、違いに気付く。 ③ポイントを知る。 (7) 取り組む時間 後転 ①技に取り組む。 ・ローテーションで取り組み、ポイントが1つずつできるかを確認していく。 ・自分の状態を知り、自分の課題が分かる。 ②自分の力に合っためあてを選ぶ。 ・自分の状態をもとに取り組む技と技のポイントを選ぶ。 (8) 整理運動 (9) 学習の振り返り (10) 学習のまとめ (11) 片付け (12) 集合・整列・挨拶	○一つ一つの動きの大切なポイントを伝える。 ○児童が見付けた、後ろ転がりとは後転の違いを基に、連続図に技のポイントを3つ提示する。 ○ポイントにつながる言葉が児童から出てこないときには、見る視点を与え、後ろ転がりとは後転の違いを比較させる。 ○グループごとに技に取り組み、友達のできばえを伝え合うように言葉掛けをする。 ○できばえをうまく伝え合えないグループには、見るポイントを一緒に確認する。 ○めあてを選べない児童や、自分に合っためあてがもてない児童には、できていることとできていないことを確認させ、適切にめあてを選択させる。 ☆基本的な技の動き方や技のポイントを理解し、自分の力に合った課題を選んでいる。 【思考・判断】（観察・カード・聞き取り） ○よく使った部位をほぐすように言葉掛けをする。 ○できたこととその理由を書けている児童を取り上げ、全体に広める。 ○グループ学習が上手にできていたグループを取り上げ、称賛する。 ○児童に意欲をもたせるため、新しくできるようになった技がある児童を称賛する。 ○次時の学習は、後転ができるようになるための練習方法を紹介することを伝える。 ○安全に気を付け、声を掛け合いながら片付けさせる。

(6) 学習資料について

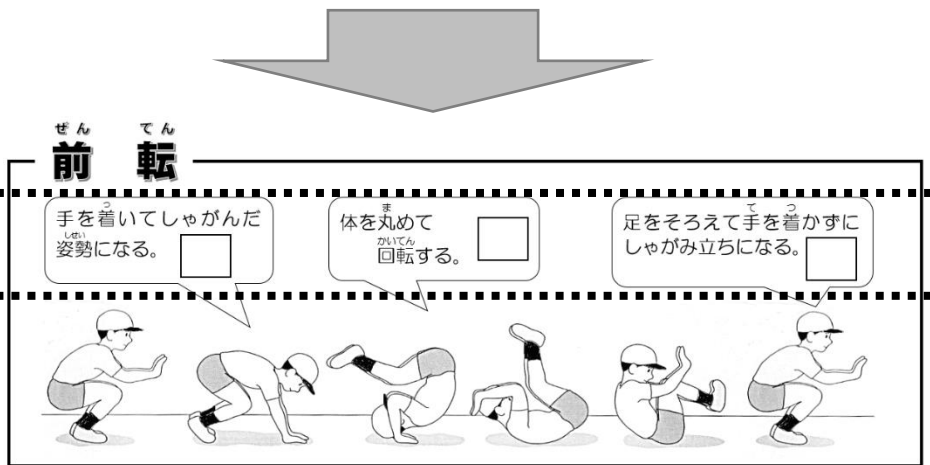
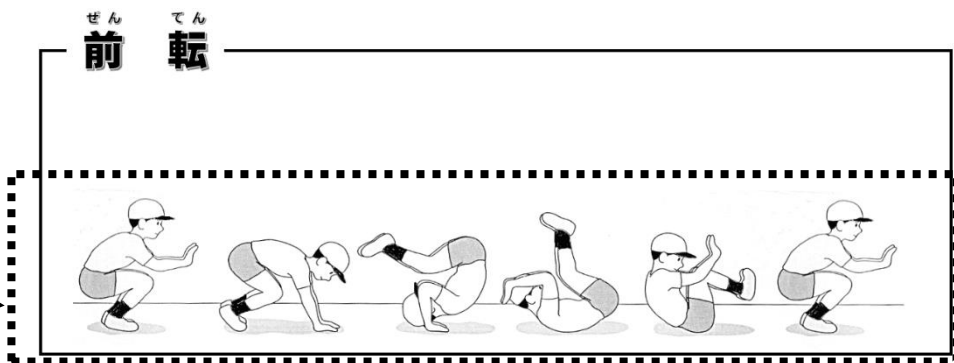
低学年の運動遊びとのつながりを大切にし、器械運動の学習の仕方を児童が身に付けられるようにしていくために、それぞれの技や技のポイント、練習方法や練習の場を以下のような順序で児童へ提示していく。

【具体的な活用例】

知る時間の活動の時

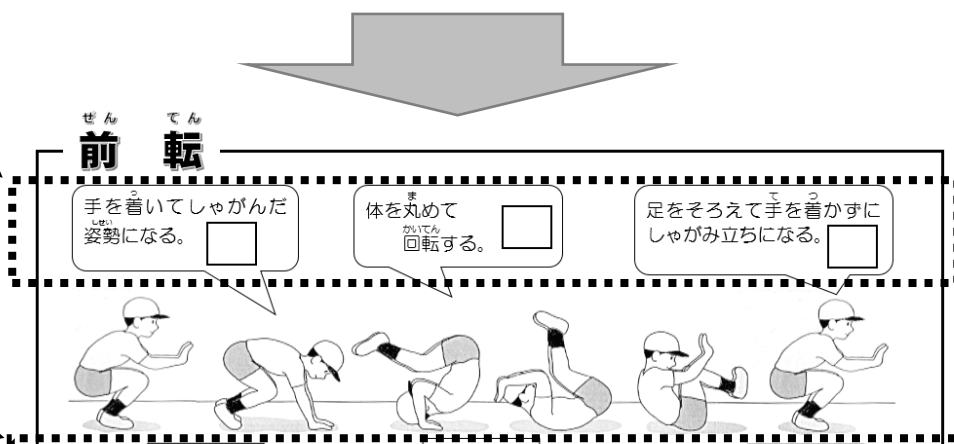
- ・前転の動きができていない児童を取り上げたり、連続図を提示したりして前転の行い方が分かるようにする。
- ・技のポイントはまだ提示せず、前転がりとは前転を比較し、その違いを児童に問いかけながら気付かせていく。

- ・児童から出てきた前転がりと前転の違いを基に、教師が技のポイントを



取り組む時間の活動の時

- ・グループ学習を通して、ポイントができるかを1つずつ確認しながら技に取り組ませる。



取り組む時間の活動の時

- ・児童が自分の力に合った課題を解決する方法を知るために、ポイントごとの練習方法や練習の場を提示し、行い方を示す。



陸上運動系領域部会

夏季合同研究会 分科会資料

東京都小学校体育研究会 研究主題

三つの資質・能力の関係性を明確にし、
運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成

【本日の講師】

新宿区教育委員会 統括指導主事
小林 力 先生

【実証授業】

授業日	平成29年11月7日（火）
場所	港区立港南小学校
授業	第3学年 走・跳の運動「高跳び」
授業者	小林 幸子 主幹教諭

【小体研 研究主題】

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、

運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成」

1 研究の内容

(1) 研究の視点1 「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

知識及び技能

陸上運動系の特性を味わうために必要な知識や技能であると考え。学習のはじめは、これまでの経験の中から得た力で運動を楽しむ。その後、学習を進めていく中で、体を巧みに操作しながら運動したり、合理的な運動の行い方を大切にしながら競走（争）したり、記録の達成を目指したりしながら新たな知識や技能を獲得し、運動を楽しんだり、運動する心地よさを味わったりする。また、技能においては、体全体をリズムよく、大きく、素早く、力強く動かすことが重要である。

思考力, 判断力, 表現力等

「記録の向上」「競走（争）での勝利」「目標の達成」などの目的を果たすために、競走（争）の仕方や場・練習方法の選択をしたり、運動の仕方を工夫したり、自己の能力に適した課題を見付けたりする力である。陸上運動系の動き自体の面白さや心地よさを引き出させたり、仲間と競い合いながら自己の課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫させたりすることが重要である。また、考えたことを伝え合うことによって、個や集団の考えをさらに発展させる力でもあると考える。もともと個人種目である陸上運動系においては、学習の中で児童に、伝え合う必然性を感じさせることも重要である。

学びに向かう力, 人間性等

他者とよい関わりをもちながら、目標に向かって自分自身や仲間を高めようとする力であると考え。体力や技能の程度にかかわらず競走（争）に勝つことができ、できるだけ多くの児童に勝つ機会を与えられるようにしたり、勝敗の結果を受け入れたりすることをできるようにすることが重要である。また、挑戦したり、やり遂げたりすることの意義を実感することで、他者への共感や思いやりを育むことにもつながっていき、生きる力の礎となる力でもある。

中学年 走・跳の運動「高跳び」における具体的な児童の学習状況

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
第3学年	<ul style="list-style-type: none">・ 場に応じた運動の行い方を知る。・ 競争の行い方を知る。・ 安全な着地の仕方を知る。・ よい動きを知る。・ 短い助走からバーに近い足を上げて上方に高く跳ぶことができる。・ 足から着地することができる。	<ul style="list-style-type: none">・ 自分の動きをもとに、自己の能力に適した課題を見付けている。・ 競争の規則や記録への挑戦の仕方を選んでいく。・ 友達の動きのよさを、運動中に声をかけたり、学習カードに記入したり、振り返りの時間に発表したりして伝えている。	<ul style="list-style-type: none">・ 競争や記録への挑戦などに進んで取り組もうとしている。・ 競争のきまりを守り、だれとでも仲よく励まし合おうとしている。・ 用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。・ 勝敗の結果を受け入れようとしている。・ 用具の安全を確かめようとしている。

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
	第 3 学 年 の 内 容 に 付 け 加 え て		
第 4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場に応じた練習の行い方を知る。 ・ 3～5歩の短い助走から踏切り足を決めて力強く踏み切り上方に高く跳ぶことができる。 ・ 膝を柔らかく曲げて足から着地することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の動きをもとに、動きのポイントと照らし合わせて自己の能力に適した課題を見付けている。 ・ 動きのポイントについて見合ったり、教え合ったりしやすくなるような練習の場を選んでいる。 ・ 運動のポイントや友達の動きのよさを、練習中に声をかけたり、学習カードに記入したり、振り返りの時間に発表したりして伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最後まで努力して運動しようとしている。 ・ 動きのよさや課題を伝え合う際に、友達の考えを認めようとしている。 ・ 場の危険物を取り除こうとしている。

(2) 研究の視点2「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

陸上運動系の学習活動において、主体的・協働的で深い学びを実践するための配慮すべき事項を、三つの資質・能力に関連させて示し、学習過程を作成する。

主体的な学びを実現するために

- 「まずはやってみる」ために必要な「知識及び技能」を用いて運動を楽しむことができるようにする。その結果、もっと運動したいという「学びに向かう力, 人間性等」が高まる。
- 「学びに向かう力, 人間性等」が高まることで、もっと「技能」を高め、運動を楽しみたくなる。
- 運動を楽しもうと「思考力, 判断力」を働かせることができるようになる。その結果、新たな「知識」を獲得したり「技能」を高めたりできる。

協働的な学びを実現するために

- より技能を高めたり、より楽しく運動したりするためには、友達と一緒に取り組むことが必要であることに気付くことができるようにする。その結果「表現力」を用いて、他者と関わりながら運動に取り組んでいく。
- 互いに支え合って運動に取り組むことができるようにすることでさらに「技能」が高まる。
- 他者とよい関わりをもつことをできるようにすることで、互いに尊重し合う「学びに向かう力, 人間性等」が高まる。

深い学びを実現するために

- 他者と支え合いながら、より高い目標を目指していく中で、新たな課題を発見し、解決に向かいながら、さらに「三つの資質・能力」を高めるとともに、「体育の見方・考え方」を豊かなものにしていく。

(3) 研究の視点3について

実証授業学年（第3学年）における、具体的な評価規準を三つの資質・能力の観点から踏まえ作成する。そして、そのような姿が現れるような運動の場や競争の仕方を開発するとともに、評価や指導の方法を示していく。

(4) 研究主題に迫る手だてについて

- ① 「三つの資質・能力」を計画的に指導することができる学習過程を開発する
 - ・ 陸上運動系領域における三つの資質・能力の具体的な学習状況を明確にする。
 - ・ 三つの資質・能力が主体的・協働的で深い学びの過程の中で、どのように表れるのかを明確にする。
 - ・ 中学年の陸上運動系における主体的・協働的で深い学びが実践される学習過程を開発する。
- ② 児童が主体的・協働的な学習を行うことができる競争の仕方（運動の場）を開発する
 - ・ 中学年が身に付けるべき技能を明確にする。
 - ・ 中学年に必要な技能を身に付けることができるステップと運動の場を明確にする。
 - ・ 児童が主体的・協働的な学習を実践でき、一般化可能な競争の仕方を開発する。

2 学習指導案

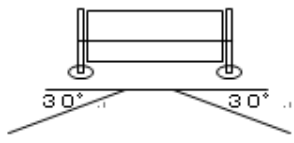

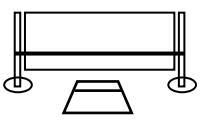
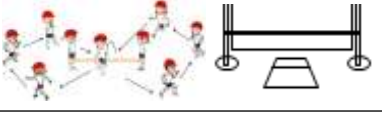
(1) 単元の目標

- 短い助走から、ゴムに近い足を上げて、上方に高く跳ぶことができる。(技能)
- 跳の運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができる。(関心・意欲・態度)
- 自己の能力に適した課題をもち、競争の規則や記録への挑戦の仕方を選べるようにする。
(思考・判断)

(2) 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	跳の運動に進んで取り組むとともに、きまりを守り勝敗を受け入れて仲よく運動をしようしたり、運動する場や用具の安全を確かめようとしていたりしている。	自分の力に合った課題をもち、競争の規則や記録への挑戦の仕方を選べるようにする。	跳の運動を楽しく行うための基本的な動きや運動の基礎となるよい動きを身に付けている。
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ① 競争や記録への挑戦などに進んで取り組もうとしている。 ② 競争のきまりを守り、だれとでも仲よく励まし合おうとしている。 ③ 用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④ 勝敗の結果を受け入れようとしている。 ⑤ 用具の安全を確かめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 場に応じた運動の行い方を知る。 ② 競争の行い方を知る。 ③ 安全な着地の仕方を知る。 ④ よい動きを知る。 ⑤ 自分の動きをもとに、自己の能力に適した課題を見付けている。 ⑥ 競争の規則や記録への挑戦の仕方を選んでいる。 ⑦ 友達の動きのよさを、運動中に声をかけたり、学習カードに記入したり、振り返りの時間に発表したりして伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 助走の走り出しの位置に合わせて、バーに近い足を上げて上方に高く跳ぶことができる。 ② 足裏から着地することができる。 ③ またぎ跳びの動作を身に付け、助走から着地まで止まらずに行うことができる。

(3) 学習過程・単元の指導と評価の計画

段階	知る			工夫する	
時	1	2	3	4	
本時の 主なねらい	学習の流れを知り、安全な着地を身に付ける。	助走から止まらずに片足で跳ぶ。競争の仕方を知り、記録への挑戦の仕方を選んでいる。	ゴムに近い方の足を振り上げて跳ぶ。運動を通して、友達のよい動きについて考え、表現する。	チームで協力して練習し、勝利を目指すことで高跳びを楽しむ。	
学習活動	1 単元の流れを知る。 2 準備運動・ジャンプウォーミングアップについて知る。 3 試し跳び（試しの競争）を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴムに引っかからないように跳ぶ。 ・足の裏で着地する。 ・どの方向から跳んでもよい。  </div> 4 整理運動を行う。 5 振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; background-color: #e0e0e0;"> <p style="text-align: center;">振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全な着地の仕方について ○よい動きへの気付きについて </div> 6 片付けをする。	1 学習の流れとめあてを確認する。 2 準備運動・ジャンプウォーミングアップを行う。 3 よい動きに気付く運動を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">○短い助走をつけて跳ぶ場 (8の字跳び) など</p>  <p style="text-align: center;">短い助走から、止まらずに何回でも跳ぶことができるようにする。</p> </div> 4 振り返り①をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; background-color: #e0e0e0;"> <p style="text-align: center;">振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○短い助走をつけて片足で跳ぶことについて </div> 5 競争を行う。 高跳ビンゴゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・ビンゴカードを選ぶ ・自分が選んだビンゴカードを使って、いろいろな方向から跳ぶ。 ・競争が終わったら、グループごとにビンゴの数を確認する。 	3 よい動きに気付く運動を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">○フワッとジャンプの場</p>  <p style="text-align: center;">跳び箱（1段）の上から跳ぶ。など</p> </div> 4 振り返り①をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; background-color: #e0e0e0;"> <p style="text-align: center;">振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バーに近い足の振り上げ方について </div> 5 競争を行う。	3 よい動きに気付く運動を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">2, 3時間目に行ったよい動きに気付く運動から選択して行う。</p>  </div> 4 振り返り①をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; background-color: #e0e0e0;"> <p style="text-align: center;">振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○よい動きの伝え合いについて </div> 5 競争を行う。	
			6 整理運動を行う。 7 振り返り②をする。 8 片付けをする。		
評価の重点	関心・意欲・態度	③準備・片付け⑤場や用具の安全	②順番・きまり	④ 勝敗の受け入れ	①意欲的な運動への取り組み
	思考・判断	③安全な着地の仕方を知る。	①場に応じた運動の仕方を知る。 ②競争の仕方を知る。 ⑥記録への挑戦の仕方を選択する。	④よい動きを知る。 ⑦友達のよい動きについて表現する。	⑤自己の能力に適した課題を見付ける。 ⑦友達のよい動きについて表現する。
	技能	②安全な着地を行う。	③助走を付けて、片足で跳ぶ。	③ゴムに近い足を振り上げて跳ぶ。	③走り出しの位置に合わせて上方に高く跳ぶ。

(4) 一単位時間の流れ (本時 3 / 4 時)

①本時の目標

- ゴムに近い足を振り上げて跳ぶことができる。(技能)
- 勝敗の結果を受け入れようとするができる。(関心・意欲・態度)
- よい動きを知り、友達のよい動きについて表現することができる。(思考・判断)

②展開

時間	学習内容・学習活動	○指導上の留意点	◇評価 (評価方法)
導入	1 学習の流れとめあてを確認する。	○学習の流れや場の配置が視覚的に理解できるように図をしめしておく。	
	フワッと跳ぶコツを見付けよう。		
展開	2 準備運動・ジャンプウォーミングアップを行う。	○楽しみながら何度も繰り返し運動に取り組み、自然と運動感覚が身に付くようにする。	
	3 よい動きに気付く運動を行う。 ・フワッとジャンプの場	○片足で踏み切って跳ぶようにさせる。 ○ゴムに近い足を振り上げて、どの方向からも跳ぶことができるような場を用意する。	
	・心地よさや違和感から気付いた「よい動き」はないか言葉掛けをする。 ※「よい動き」…助走から止まらずに、ゴムに近い側の足を振り上げ、片足で跳ぶ。 (2時のめあて) (本時のめあて) (2時のめあて)		
	4 振り返り①を行う。	○ゴムに近い足を振り上げる動きを取り上げる。	
	5 競争を行う。 ・「高跳ビンゴゲーム」	○自己の能力に適した高さに挑戦することができるカードを選ばせる。 ○競争が終わったら、グループごとにビンゴの数を確認させる。	◇ゴムに近い足を振り上げて跳んでいる。【技】(観察) ◇勝敗の結果を受け入れようとしている。【関意態】(観察) ◇よい動きを知り、友達のよい動きについて表現している。【思・判】(学習カード・発言)
【本時で支援が必要な児童】 ①両足で踏み切っている。 → 8の字跳びを想起させ低い高さから取り組ませる。 ②ゴムに遠い側の足を振り上げている。 → 跳び箱ジャンプを想起させ「助走なしで跳ぶ」「一步助走で跳ぶ」と助走の歩数を増やしながらで取り組ませる。			
まとめ	6 整理運動を行う。		
	7 振り返り②を行う。	○助走をつけて止まらずに、ゴムに近い側の足を振り上げ、片足で跳んでいる児童を取り上げて、「よい動き」を確認させる。	
・競争中に感じた心地よさや違和感から、「よい動き」の確認をする。 ・自分が「できたこと」と「できなかったこと」を確認する。			
	8 片付けをする。		

(5) 資料

○ 競走の仕方【高跳ビンゴ】

毎時間の身に付けさせたい技能（ミッション）を意識して跳ぶことができた場合、記録シート（ビンゴカード）のマス目にシールを貼ることができる。縦と横どちらかで3つ連続シールが貼れたらビンゴとし、そのビンゴ数をチームで競い合う。

ミッションをクリアできているか（正しく跳べているか）を見合ったり、チームのビンゴ数を増やせるように友達と教え合ったりすることで、主体的・協働的な学びが展開できると考える。なお、ビンゴカードの形は、児童の実態や学習進度に応じて、適宜変更する。

【毎時間のねらいとビンゴカードの例】

※高さの設定については、今後事前の授業の実践をもとに検討する。

①安全な着地をすることができる。

**ミッション1
足うらでちゃくちせよ！**

高さ	すきなむき
50 cm	
40 cm	
30 cm	

②助走をつけて片足で踏み切ることができる。

**ミッション2
止まらずに跳び越せ！**

高さ	右がわ	まん中	左がわ
50 cm			
40 cm			
30 cm			

※実態に応じて、高さを変えてもよい。

③ゴムに近い足を振り上げることができる。

**ミッション3
内がわの足をふり上げよ！**

たかさ	右がわ	まん中	左がわ
50 cm			
40 cm			
30 cm			

④ポイントを生かして高く跳ぶことができる。

**ラストミッション
すべてをクリアして高くとべ！**

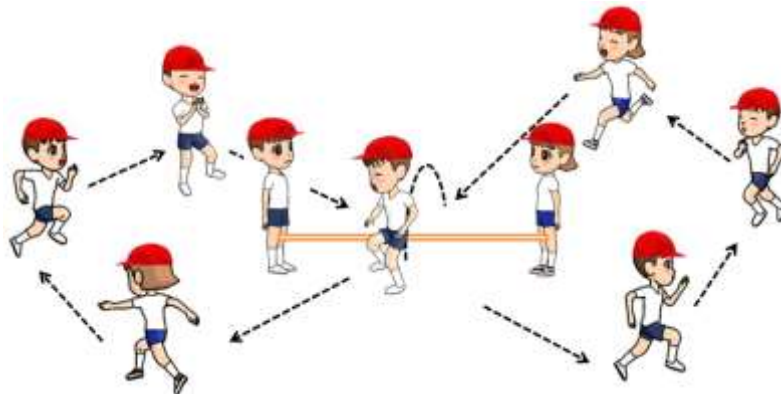
たかさ	右がわ	左がわ
60 cm		
50 cm		
40 cm		

※高さを変えたカードを選択できるようにする。

学習が進む中で、児童から中央から跳びにくいという声が出てきたら、まん中を除いた左右からのカードに切り替える。その場合は、縦のビンゴ数で競い合う。

○よい動きに気付く運動【8の字跳び】

ねらい 流れの中で繰り返し跳ぶことで、跳ぶことの楽しさを味わい、合理的な動きに気付かせる。



繰り返し跳ぶ経験や、友達の動きを見ることから、「より高く跳びたい。」「どちらからも跳んでみたい。」「〇〇さんと同じように跳びたい。」という意識につなげていく。また、グループで活動することで、「どうしたらスムーズに跳べるか。」「どうしたらグループみんなが跳べようになるか。」などをみんなで考えることで、学び合いにもつなげることができる。

東京都小学校体育研究会 陸上運動系領域部会の 研究資料をご活用ください。



ホームページをご覧ください！

東京都小学校体育研究会 陸上

これまでの研究資料など公開しています。

【跳の運動系指導資料】

平成26年に作成した「走り幅跳びハンドブック」、平成27年に作成した「走り高跳びハンドブック」がそっくりそのままダウンロードできます。



また、走り高跳びハンドブックの内容を凝縮した「これさえあれば、誰でも授業ができる！走り高跳びスタートガイド」もダウンロードできます。



平成28年に作成した「第2学年 跳の運動遊びハンドブック」もそっくりそのままダウンロードできます。



【走の運動例ファイル】

平成20～25年度「走の運動系」研究成果

低学年 「走の運動遊び 運動例ファイル」

中学年 「走の運動 運動例ファイル」

第5学年 「短距離走・リレー（リレー中心） 学習資料」

低学年

中学年

5年 短距離・リレー



これらの運動例ファイルもそっくりそのままダウンロードできます。ご活用ください。

平成29年度

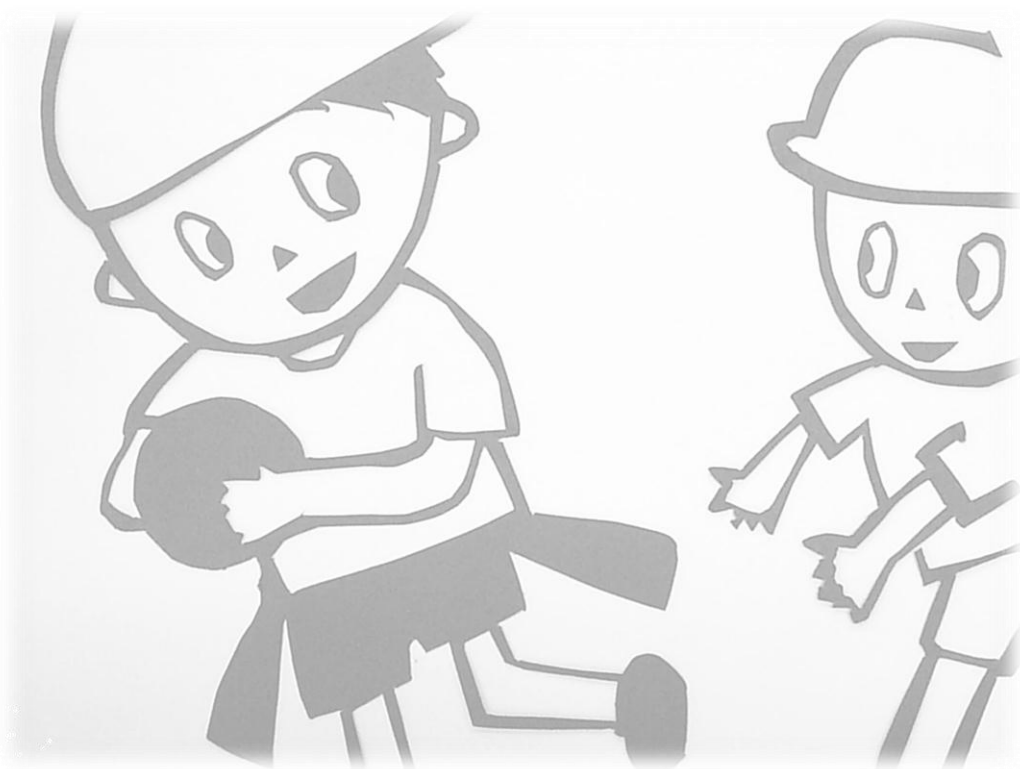
夏季合同研究会

ボール運動領域部会

研究主題

三つの資質・能力の関係性を明確にし、

運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成



指導・助言

文京区教育委員会指導主事

藤咲 秀修 先生

実証授業

授業日 平成29年10月6日(金)

場所 江東区立第三砂町小学校

授業 ゴール型「フラッグフットボール」

授業者 第6学年 森山 雄樹 主任教諭

1 研究仮説について

〈ボール運動領域部会・研究仮説〉

魅力的なゲームの工夫を行い、対話が生まれる環境を設定すれば、一人一人がチームに貢献し、チームで課題を解決する喜びを味わうことができるだろう。

○ゲームの工夫

ボール運動領域では、ゲームを行う中で児童の資質・能力が育まれると考える。そこで、ゲームのもっている教材的価値を明らかにし、「何を学ばせ、どんな資質・能力を育むのか」を明確にしたゲームの工夫に力を入れて考える。魅力的なゲームとは、児童一人一人が夢中になることのできるゲームと捉えている。

○対話が生まれる環境

本研究で明らかにした資質・能力が育まれるよう、意図的に対話の生まれる環境（場や時間）を設定し、対話するタイミングや相手、指導者の支援などに留意する。

○チームへの貢献

チームへの貢献とは、チームを構成する一人一人が活躍できることと捉える。チームの勝利や得点のためにシュートやパスができた等の技能や、チームの意欲が高まるような声かけをするなどの態度、チームに合った作戦を提案したり、選んだりする思考・判断面などを幅広く認めることである。

○課題を解決する喜び

ボール運動領域では、ゲームそのものの楽しさを味わいながら、学級の友達とルールを考えたり、チームの味方と作戦を選んだりして課題の解決に向けて活動する過程によって、楽しさや喜びを味わえると考えている。

〈研究仮説について〉

2 研究主題に迫るための手立て

① 年間指導計画

「チームに貢献する姿」や「チームで課題を解決する喜びを味わう姿」を目指してボール運動の年間指導計画のモデルを設定した。

〈A 小学校の場合〉

第5学年	ベースボール型「ティーボール」	ネット型「ソフトバレーボール」	ゴール型「ハンドボール」
第6学年	ゴール型「フラッグフットボール」	ゴール型「バスケットボール」	ゴール型「サッカー」



○第5学年では、役割を明確にして一人一人が得点する楽しさを味わいやすいベースボール型「ティーボール」を最初に学習する。次にチームの連係を学びやすいネット型「ソフトバレーボール」を学習する。ネット型やベースボール型で学んだ役割分担や連係を生かして、ゴール型「ハンドボール」を学習し、主に「ボールを持たないときの動き」を学習します。

○第6学年では、攻守交代制で、伝え合いをする場面が多いゴール型「フラッグフットボール」から学習を始め、作戦の選び方を学習します。次に、攻守入り交じる状況で素早い状況判断を繰り返し行う「バスケットボール」を学習し、状況判断する力を高めていきます。そして、これまで学習してきた内容を生かして、ボールを足で扱う「サッカー」を学習します。

〈B 小学校の場合〉

第5学年	ベースボール型「ティーボール」	ネット型「ソフトバレーボール」	ゴール型「バスケットボール」
第6学年	ベースボール型 or ネット型	ゴール型「フラッグフットボール」	ゴール型「サッカー」



第6学年ではベースボール型又はネット型から学習します。第6学年でもベースボール型やネット型の学習から、役割の大切さや得点の喜びを味わったり、連携の大切さを学んだりしてから、ゴール型の学習に取り組みさせていきます。

学校や児童の実態に応じて、弾力的に年間指導計画を編成することを大切にしたい。

②魅力的なゲームの工夫【育てたい「資質・能力」を明確にして】

学びに向かう力・人間性等

- ・ 集団対集団で競い合うための練習やゲームに積極的に取り組んでいる。
- ・ ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしている。
- ・ 用具の準備や片付けで、分担された役割を果たしたり、用具の安全を保持したりすることに気を配っている。
- ・ 勝敗を受け入れ、ゲームの前後に礼と握手をしている。
- ・ 仲間のよさを認め合い、みんながゲームの楽しさに触れることができるように、声を掛けたり、協力をしたりしている。

フラッグフットボールで育てたい資質・能力

知識及び技能等

- ・ フラッグフットボールの行き方を理解している。
- ・ フリーの味方にパスをすることができる。
- ・ 得点しやすい場所でパスを受けて相手陣地に侵入をすることができる。
- ・ 味方からボールを受けることのできる場所に動くことができる。
- ・ ボールを保持する人とゴールの間に体を入れて相手の侵入を防ぐことができる。

思考力・判断力・表現力等

- ・ みんなが型の楽しさや喜びに触れることができるよう、プレー上の制限、得点の仕方などのルールを選んでいる。
- ・ 効果的な攻め方や一人一人のよさから、チームに合った作戦を選んだり、立てたりしている。
- ・ 作戦カードから今日の作戦について振り返り、よかったところを伝え合っている。

研究主題を受けて、三つの資質・能力の「思考力・判断力・表現力等」を育むことを研究の切り口とし、意図的な対話が生まれやすいゴール型「フラッグフットボール」を教材に選んで研究を進めている。フラッグフットボールの教材的価値を明らかにするとともに、「資質・能力」を育むことができるようゲームを工夫した。

○フラッグフットボールの教材的価値

- ・ 作戦を選ぶ（立てる）学習を効果的に進めることができる。

作戦の成否が他のゴール型より分かりやすい。技能の高い児童以外も主体的に取り組みやすく、活躍の場が保障される教材である。攻撃のたびにハドル（作戦会議）がある点も特徴的である。ハドルで作戦を選び、それぞれの役割を確認し、その作戦に従ってゲームを行う。作戦がうまくいったのかどうかについても、ハドルの際に直ちに振り返ることができる。

- ・ 他のボール運動でも「ボールを持たないときの動き」を生かせる。

ゴール型における「ボールを持たないときの動き（サポート）」を学習するための有効な教材である。「ゴール方向へボールを運ぶためのサポート」は、他のゴール型でも有効に発揮されていることが明らかになっている。

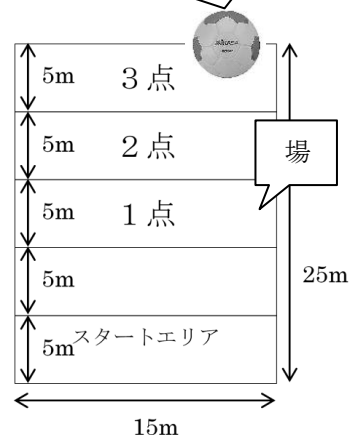
○資質・能力を育むことができる場や教具、ルールの工夫

思考力・判断力・表現力等を育めるよう「チームで考え、選んだ作戦を遂行した実感がもてるゲーム」を授業づくりのコンセプトとした。作戦や一人一人の役割が振り返りやすくなるように工夫した。

はじめのルール	工夫した理由（メリット）
・ 攻撃側4名対守備側3名	・ 数的優位の状況になる。
・ 攻撃毎にハドルを行う。	・ うまくいったのかを直ちに振り返られる。
・ 前へのパスはスタートエリアから1回のみ。	・ ゲーム中の状況判断が簡単にできる。
・ パスをノーバウンドでキャッチできたらパス成功。（攻撃側がパスをノーバウンドで受け取ることができなかった場合は、攻撃の失敗と見なす。）	・ 作戦の成否が判断しやすい。フラッグを取ること、パスを邪魔するのか、守備側の判断もしやすく、ゲーム中の混乱が生じにくい。
・ 守備側は1点エリアから守り始める。	・ 攻撃側が安心して攻撃に取り組める。
・ 手渡しパスはいつでもどこでもよい。	・ 作戦を工夫しやすくなる。
・ フラッグを取られたエリアの得点を競う。	・ 作戦の成否が分かりやすく、意欲をもちやすい。

<教具>

ボール操作を容易にするためにハンドボールを使用する。



【「思考力・判断力・表現力等」を育むルールの工夫例】

- ・ 各エリアの得点 ・ 3点エリアを突破したら更に加点する。 ・ 守備側がスタートする位置
- ・ コートの広さ ・ スタートエリアから1点エリアまでの距離を広げる。 など

3 学習指導案

(1) 学年及び単元名

第6学年 ボール運動 ゴール型「フラッグフットボール」

(2) 単元の目標

- ・簡易化されたゲームで、ボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防をすることができるようにする。【技能】
- ・運動に進んで取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。【態度】
- ・ルールを工夫したり、チームに合った作戦を選んだり立てたりすることができるようにする。

【思考・判断】

(3) 単元の評価規準

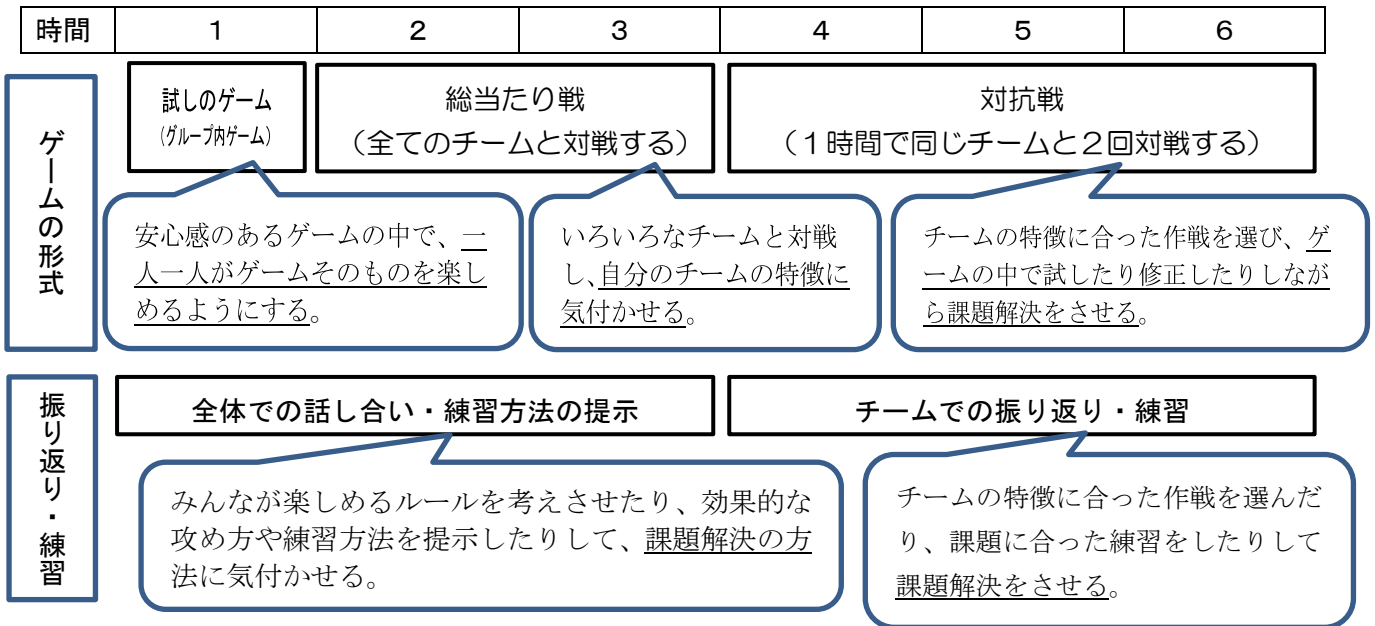
	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・集団対集団で競い合う楽しさや喜びに触れることができるようゴール型のゲームに進んで取り組みようとしている。 ・ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 ・用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ・運動をする場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型のゲームの行い方を知るとともに、簡易化されたゲームを行うためのルールを選んでいる。 ・効果的な攻め方やチームの特徴に応じた攻め方を知るとともに、自分のチームの特徴に応じた作戦を選んだり、立てたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型では、簡易化されたゲームで、攻守が入り交じった攻防をするためのボール操作やボールを受けるための動きができる。
学習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	<ol style="list-style-type: none"> ①集団対集団で競い合うための練習やゲームに積極的に取り組みようとしている。 ②ルールやマナーを守り、仲間よさを認め合い、みんながゲームの楽しさに触れることができるように、声を掛けたり、協力をしたりしようとしている。 ③用具の準備や片付けで、分担された役割を果たしたり、場や用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①フラッグフットボール行い方を知っている。 ②みんながゴール型の楽しさや喜びに触れることができるようにプレー上の制限、得点の仕方などのルールを選んでいる。 ③効果的な攻め方や一人一人のよさから、チームに合った作戦を選んだり、立てたりしている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①味方と関係したパスやランで得点エリアに侵入することができる。 ②進路を妨害したり、フラッグを取ったりして相手の侵入を防ぐことができる。 ③チームの作戦に応じた位置取りやボール操作ができる。

(4) 単元計画 (第6学年 ゴール型 6チーム3コートの例)

時間	1	2	3	4	5	6
ねらい 指導の	運動の楽しさや喜びを味わう ※「運動の楽しさや喜び」とは、ボール運動領域 ゴール型のもつ特性のこと。			チームで課題解決を行う ※「課題解決」とは、児童がチームの特徴に合った より良い作戦に修正したり、作戦通り行動する ために練習したりすることである。		
学習内容・活動	○学習内容の確認 ・総当たり戦を行う中で、自分のチームの特徴や効果的な 攻め方を知る。			○学習内容の確認 ・チームの特徴に合った作戦を選んで、ゲームをする。 ・対抗戦を行い、ゲームを振り返り課題解決を図る。		
	○準備運動 ○わくわくタイム (ゲームにつながるボール慣れ)			パス&ラン しっぽ取り (小鳥の引っ越し)		
	○ルールの確認 ○グループ内ゲーム ・ゲームを理解し、楽 しむ。	○総当たり戦 (ゲーム1) ・様々なチームと対戦し、 自己やチームの特徴を 把握しながら、課題解 決の方法に気付く。		○対抗戦 (ゲーム1) ・自己やチームの特徴に合った作戦を選んでゲー ムをする。 ・同じチームと連続で対戦し、ゲームを振り返り 課題解決を図る。		
	○全体での振り返り ゲームをしてみて、何か困ったことはありましたか? パスを上手に受け取るのでできないチームは… ・ブロック&ランを練習してみましょう。 ・ゆるやかなショートパスをねらってみましょう。 ・○○さんはパスをするのが上手ですね。 ・○○チームはランプレーが上手いくことが 多いですね。			○チームでの振り返り ・どこに動くとパスが通りやすいかな? ・相手を惑わすには、どんな動きが効果的だろう? どんな作戦がチームやメンバーに合っているかな? 1ゲーム目の課題を解決するためには、どんな練習 や作戦を選んだらいいだろう?		
	・ゲームを楽しむため のルールを考える。	・効果的な攻め方を考 える。		・チームの課題を解決するための作戦や練習方法 を選択して練習する。		
課題に合わせた練習に全体で取り組む 例) ・手渡しパス(フェイク)&ラン ・ブロック&ラン ・ルートパス			チームの課題に合わせた練習にチームで取り組む 例) ・3 vs 2 (4 vs 2) ・手渡しパス(フェイク)&ラン ・ブロック&ラン/ルートパス			
このルールがあると もっと楽しめるね!			自分たちの役割を 確認しよう!			
上手に攻められない から、この練習を してみよう!			こうやって攻めたら 相手をだませたよ!			
私はこのプレーを やってみたい!			記録カードを見ると この作戦がうまく いっていたことが 分かるね!			
私たちのチームは このプレーが 得意だね!			今度は○○さんの ロングパス作戦を 成功させよう!			
○グループ内ゲーム			○総当たり戦 (ゲーム2)		○対抗戦 (ゲーム2)	
○整理運動 ○学習の振り返り ○学習のまとめ ○用具の片付け						
即 学 習 活 動 に 関 与 し た 評 価 規 準	関	③	①	②		
	思	①	②		③	③
	技			① ②	②	① ②

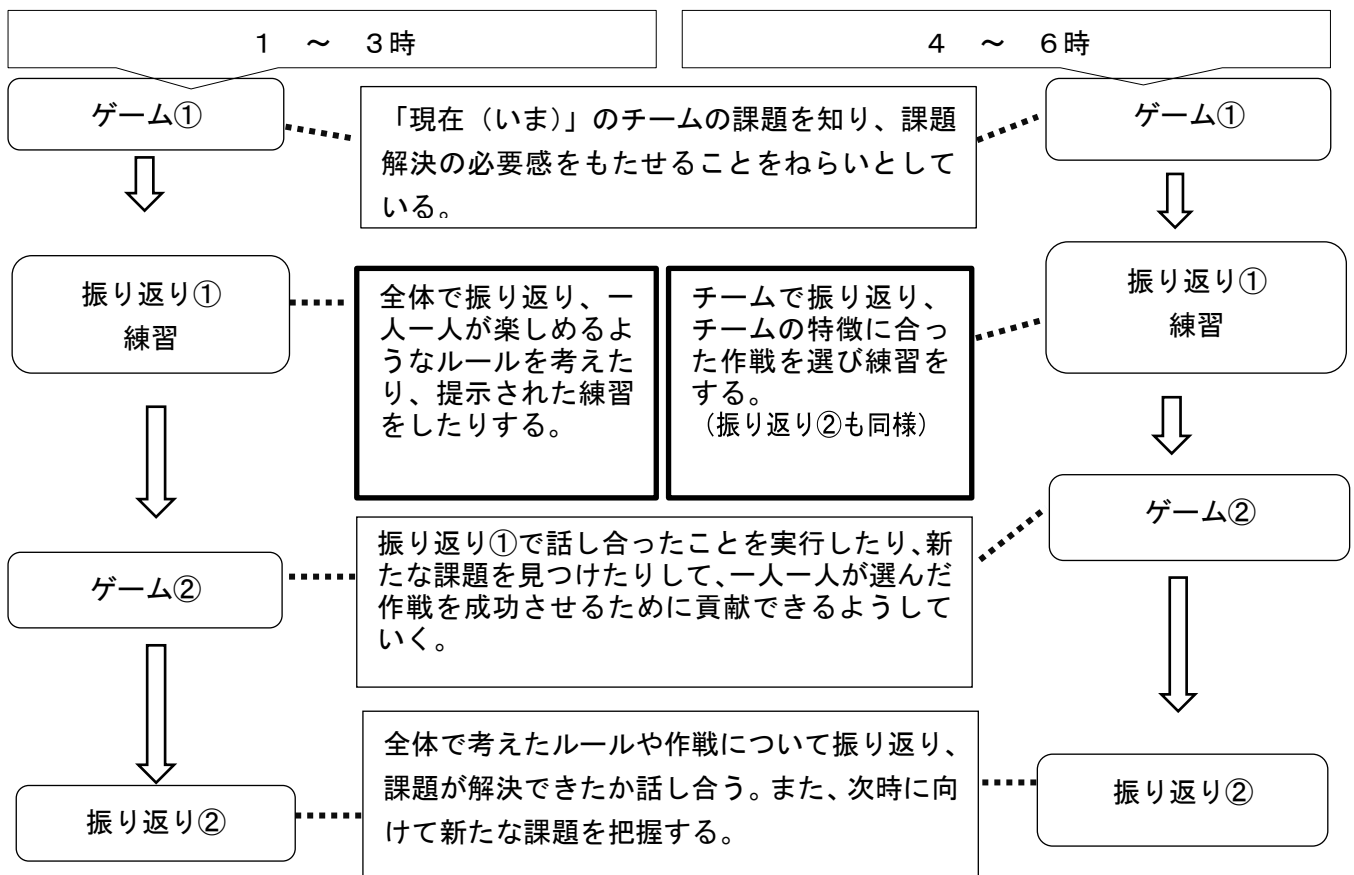
(5) 単元計画設定の意図

単元全体を6時間扱いとし、ゲームの形式や振り返り・練習時間の設定を工夫しながら進めていく。ゲームの形式は3段階、振り返りは2段階で構成し、段階的に課題解決的な学習を行っていく。



(6) 1 単位時間の流れの意図

1～3時はゲームの後に全体で振り返り、ルールを決めたり、課題解決の方法を学習したりする。4～6時はチームで振り返り、チームの特徴に合った作戦を選んだり、練習をしたりして課題解決を図っていく。



※ハドルについて

ゲームの1プレーごとに「ハドル」という作戦会議を行う。ハドルでは攻撃側のチームが学習を通して有効であった作戦の中から、次の攻撃で実行する作戦を選び、児童がそれぞれの役割を確認する。

フラッグフットボールチームカード

○点 **書き方例**

3点 相手 動き方

2点

1点 パス ボール操作
パス/ラン/手渡し

0点 役割分担

スタート 味方 A B C D

説明

- ・走る方向 ・パス（ロング、ショート）
- ・走る順番など

【 作戦番号 】 [作戦名]

○点

3点 ラン 持ってるふり

2点 持ってるふり

1点

0点 持ってるふり

スタート A B C D

説明

BがCに渡してスタート。B→A→Dの順でCが後ろを向いているところを通り、最終的にDがボールを持ってランプレー。

【 1 】 [手渡し→持ってるふり作戦]

○点

3点 ラン ブロック

2点

1点 ブロック

0点 ブロック

スタート A B C D

説明

Aがランをしやすいように、B、C、Dはブロックをする。

【 2 】 [ブロック&ラン]

○点

3点 真ん中 遠く

2点 パス

1点

0点 近く

スタート A B C D

説明

走るルートを決めて、はじめにボールを持った人が空いている味方にパスを出す。（中盤へのパス、ショートパス、ロングパス）

【 3 】 [走るルートを決めてパス]

個人カード	名前
1 個人のめあて	<input type="text"/>
2 友達から	<input type="text"/>
3 振り返り（作戦に対する自分の動き） （ ◎ ○ △ ）	<input type="text"/>

個人カード	名前
1 個人のめあて	<input type="text"/>
2 友達から	<input type="text"/>
3 振り返り（作戦に対する自分の動き） （ ◎ ○ △ ）	<input type="text"/>

個人カード	名前
1 個人のめあて	<input type="text"/>
2 友達から	<input type="text"/>
3 振り返り（作戦に対する自分の動き） （ ◎ ○ △ ）	<input type="text"/>

個人カード	名前
1 個人のめあて	<input type="text"/>
2 友達から	<input type="text"/>
3 振り返り（作戦に対する自分の動き） （ ◎ ○ △ ）	<input type="text"/>

個人カード	名前
1 個人のめあて	<input type="text"/>
2 友達から	<input type="text"/>
3 振り返り（作戦に対する自分の動き） （ ◎ ○ △ ）	<input type="text"/>

個人カード	名前
1 個人のめあて	<input type="text"/>
2 友達から	<input type="text"/>
3 振り返り（作戦に対する自分の動き） （ ◎ ○ △ ）	<input type="text"/>

一人一人の貢献で
ボールと研究を前進させよう！



実証授業は
10月6日(金)
13:00受付開始
第6学年
ボール運動 ゴール型
「フラッグフットボール」
江東区立第三砂町小学校です。
よろしくお願いします。

多様な動きをつくる運動（遊び）部会

1 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成」

2 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

- (1) 「三つの資質・能力」は、児童がもともと持っているとして捉えている。そのうち、「学びに向かう力、人間性等」に着目して研究を進めていきたい。学習指導要領総則に「他の二つの資質・能力をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素」と記載があるからである。また、多様な動きをつくる運動（遊び）では、児童一人一人の運動欲求を満たし、意欲を持続させることが、多様な動きを身に付けることにつながると考えているからである。
- (2) これまでの研究では、「知る」、「広げる」、「増やす」、「高める」という、第1学年から第4学年の4年間を見通した課題解決的な学習の流れを明らかにしてきた。今年度は、4年間の学習の中で、「学びに向かう力、人間性等」の「友達の考えや取組を認める」という「共生」の視点を踏まえながら、「主体的・協働的」に取り組む児童の姿を明らかにしていきたい。

3 研究の視点1について

＜運動領域における三つの資質・能力の学習状況＞

	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
運動領域	各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能 ・各種の運動の行い方に関する基礎的な知識 ・各種の運動を行うための基本的な技能	自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力・判断力・表現力等 ・自己の能力に適した課題に気付く力 ・自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 ・思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力	運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度 ・進んで学習活動に取り組む ・約束を守り、公正に行動する ・友達と協力して活動する ・自分の役割を果たそうとする ・友達の考えや取組を認める ・安全に気を配る

多様な動きをつくる運動（遊び）	＜1・2年＞ ○多様な動きをつくる運動遊びの楽しい行い方を知っている。 ○運動遊びを経験した結果として、体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けることができる。	＜1・2年＞ ○多様な動きをつくる運動遊びの行い方を工夫したり選んだりしている。 （姿勢、方向、人数、用具など） ○友達のよい動きを見付けている。	＜1・2年＞ ○多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ○順番やきまりを守り「いつでもどこでも誰とでも」仲よく運動をしようとしている。 ○友達と協力して用具の準備・片付けをしようとしている。 ○友達の考えや取組を認めようとしている。 ○場の安全に気を付けようとしている。
	＜3・4年＞ ○多様な動きをつくる運動の楽しい行い方を知っている。 ○運動に取り組んだ結果として、体の基本的な動きやそれらを組み合わせた動き、各種の運動の基礎となる動きを身に付けることができる。	＜3・4年＞ ○自分ができるようになりたい動きに取り組み、多様な動きをつくる運動の行い方を工夫したり選んだりしている。 （姿勢、方向、人数、用具、移動の仕方など） ○友達のよい動きを見付け、自分の運動に取り入れている。	＜3・4年＞ ○多様な動きをつくる運動に進んで取り組もうとしている。 ○きまりを守り「いつでもどこでも誰とでも」励まし合って運動をしようとしている。 ○友達と協力して用具の準備・片付けをしようとしている。 ○友達の考えや取組を認めようとしている。 ○運動をする場や用具の安全を確かめようとしている。

4 研究の内容

(1) 研究の視点1 「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

- 「知識及び運動」については、誰もができそうな易しい動きとの出会いを大切にしたい。まず、「自らやってみたいと思う楽しい運動（遊び）に出会い、取り組んだ結果、体の基本的な動きができるようになること」を目指したい。
- 「思考力,判断力,表現力等」については、自分ができるようになりたい動きに取り組み、試行錯誤を繰り返し、課題を解決するために友達と関わり、伝え合う活動に迫りたい。
- 「学びに向かう力,人間性等」については、全ての資質・能力及び学習の土台となる原動力であると考え。そこで、「いつでも・どこでも・誰とでも楽しく運動し、前向きに学習に取り組む態度」とし、涵養していきたい。



(三つの資質・能力イメージ図)

第2学年及び第3学年「多様な動きをつくる運動（遊び）【用具：ボール】」における具体的な児童の姿（例）

	知識及び運動	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを落とさずに捕ることができたよ。 ・いろいろな捕り方ができたよ。 ・何度もできたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かっこいい。 ・自分もやってみたい。 ・どうやるんだろう。 ・まねしてみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と遊ぶと楽しいね。 ・やってみたい。 ・遊ぶスペースに気を付けたよ。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・「投げ上げたボールを移動しながら捕ることができたよ。」 ・「さっきより高く投げ上げて遠くまで移動しながら捕ることができたよ。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうやってやるの？」 ・「こっは何？教えて？」 ・「こうやってやるんだよ。」 ・「○○さんの動きをまねしよう。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「友達と運動すると楽しいね。」 ・「やってみたい。」 ・「運動する場や用具の使い方を確かめたよ。」

(2) 研究の視点2 「三つの資質・能力の関係性を踏まえた学習過程の在り方」についての考え方

1学期に行った第1学年の授業実践では、単元の前半・中盤・後半における教師の働き掛け、一単位時間における教師の重点的な支援、第2時と第3時をつなぐ教師の働き掛けなど、児童の学習状況に応じて、教師のアプローチの仕方が異なることが分かった。このことから、第1学年の学習過程を作成し、具体的な学習状況を示すことにした。実証授業に向けて、第2学年及び第3学年の学習過程を作成する。

(3) 研究の視点3 「三つの資質・能力を育むための指導と評価」についての考え方

三つの資質・能力の具体的な学習状況を示すとともに、その手だてを明確にして有効性を追えば、それが評価につながる。3つの研究の視点は全て連動させて考えていく必要があると考える。

(4) 実証授業を行う学年、単元等について

- ① 第2学年、第3学年
- ② 多様な動きをつくる運動遊び、多様な動きをつくる運動
- ③ 運動遊びと運動における具体的な学習状況の相違点を明らかにする。
 - ・運動（遊び）の経験とともに、児童の学びの質（運動、態度、思考・判断）が高まっていく姿を示し、第2学年から第3学年へと、学習がつながっていく姿を明らかにする。

(5) 研究主題に迫るための手だてについて

- 「楽しさの散りばめ」
- 児童の「学びに向かう力,人間性等」に着目した指導計画の再構築
- よい動きを共有する時間の充実
- 伝え合う活動の展開

よい動きの花を使った授業づくりの一案

【目的】

一単位時間の中の児童の姿を考えながら、次時へのアプローチや授業づくりを行い、1年生のプレ授業のまとめ（5時間分）を作成しました。「こんな児童の姿を出現させたい」という教師のねらいから、「こんなアプローチをしたら」「こんな児童の姿が出た」、「では次はこうしよう」という授業づくりの参考にしてください。

【見方】

教師のねらい・意図	児童の姿（プレ授業の様子・自評）	改善案
		次回の授業は…

授業前
 こんな児童の姿を目指そう！
 「どんな児童を取り上げようか。」

授業後①
 よい動きの花を参考に・・・
 ○授業で出現した動き
 ●前時から出現していた動き

授業後②
 ○と△で子どもの姿をまとめる。
 ○…よかったこと △…課題
 □の囲み…共有した動きや運動以外の自評

授業後③
 児童の姿を振り返り、改善案（次時のねらい）を考える。
 ※実態に応じて、まだ出現していない動きや態度や思考・判断をバランスよく取り上げていく。

【学習過程】

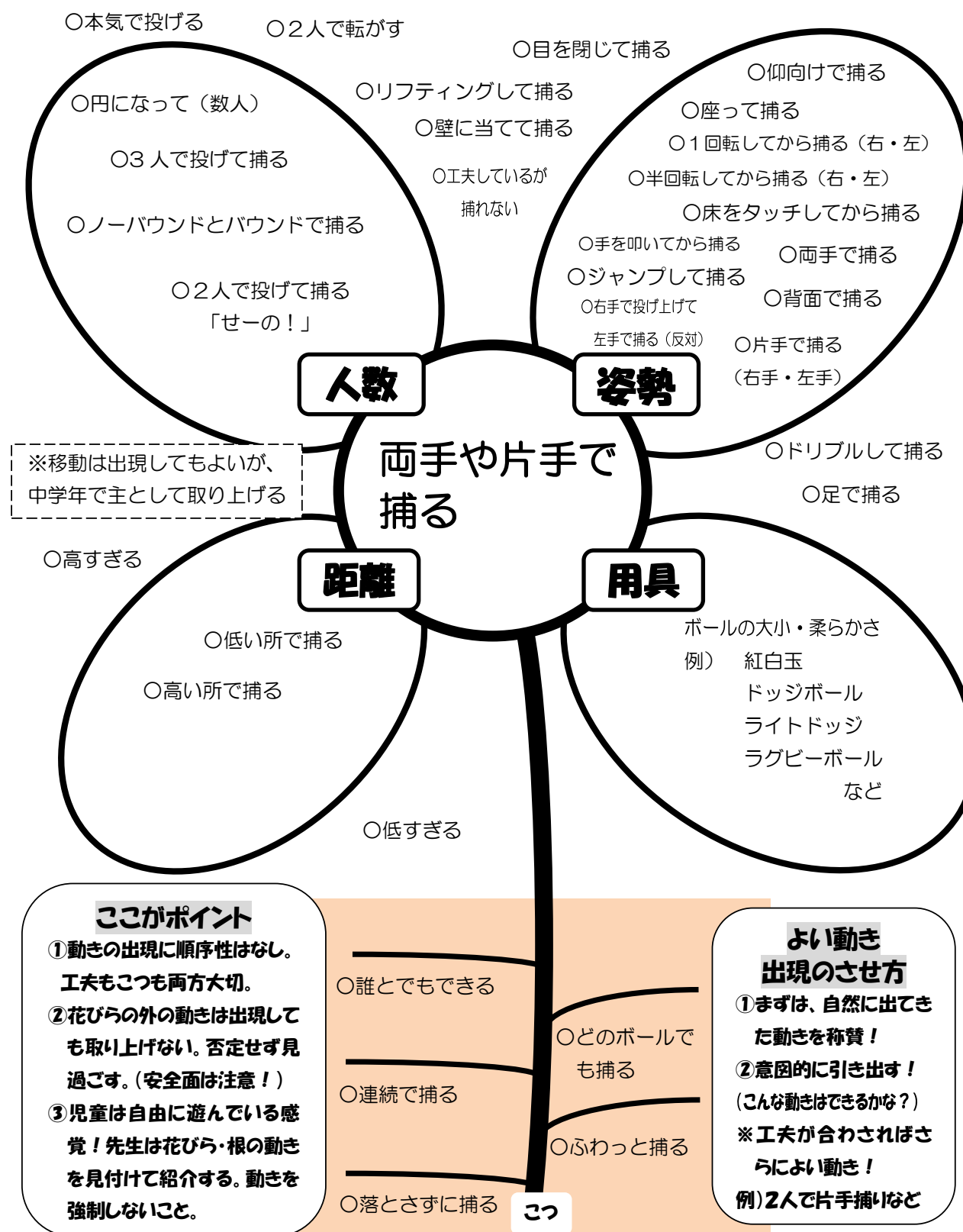
1	2	3	4	5
やってみる			工夫する	

※資料は第1時と第3時の様子です。

よい動きの花（ボール・低学年編）

中央…もとの動き（例示の動き）

花びら…工夫している動き（動きの量）
 根 …こつをつかんでいる動き（動きの質）



よい動きの花を使った授業づくり (1年生) 第1時

教師のねらい・意図

- まずは、自由にボールで遊ばせよう。
- 最初は、ボールを落とさないでしっかりと捕ることを意識させよう。

例：共有①『ボールを落とさずに捕っている』
【運動のこつ】

- たくさんの工夫が出てきたが、まずはみんなができてそうな、易しい動きを取り上げよう。

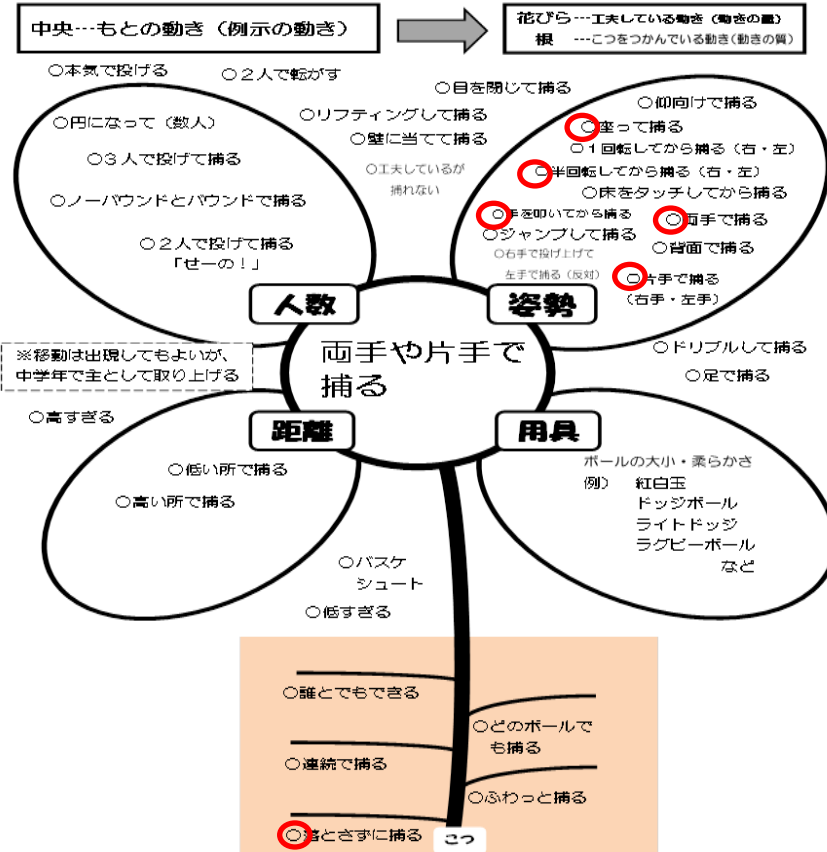
例：共有②『手を叩いてから捕る』
『片手で捕る』
【運動の工夫】



品川区立豊葉の杜学園

諸星教諭

児童の姿 (プレ授業の様子・自評)



- ボールをしっかりと見て捕る児童が増えた。

- ボールを落としてしまっていた児童が落とさないで捕ることができた。

- まだ、ボールを落としてしまう児童が多い。

- 手を叩いてから捕る動きをまねしてやってみる児童が増えた。

- 半回転して捕ったり、座って捕ったりする児童が現れた。

- 児童がボールを持って行くときにも、遊びの要素を取り入れよう。

- 先生に対して「見て見て」という児童が多くいて、全体があまり見られなかった。

- △バスケットゴールにボールを投げている児童がいた。

だから・・・

改善案

次回の授業は…

- ・ボールを見て捕る児童は増えたが、落としてしまう児童もまだ多いから、もう一度落とさないで捕ることを共有しよう。
- ・真上に投げ上げることができていない児童もいたから、手の平の向きに気付かせよう。
- ・安全に遊べるように、場をコーンで決めよう。
- ・姿勢の工夫が広がってきた。もう少し姿勢の工夫を広げるために、床をタッチしてから捕る動きなどをしている児童を紹介しよう。
- ・先生に対して「見て見て」という児童が多かったから、友達同士で見合う楽しさも伝えられるように言葉掛けしていこう。
- ・友達と協力して遊ぶなどの人数の工夫も出てきたら取り上げよう。

- まずは、自由にボールで遊ばせよう。
- 落とさずに捕るということを意識させよう。

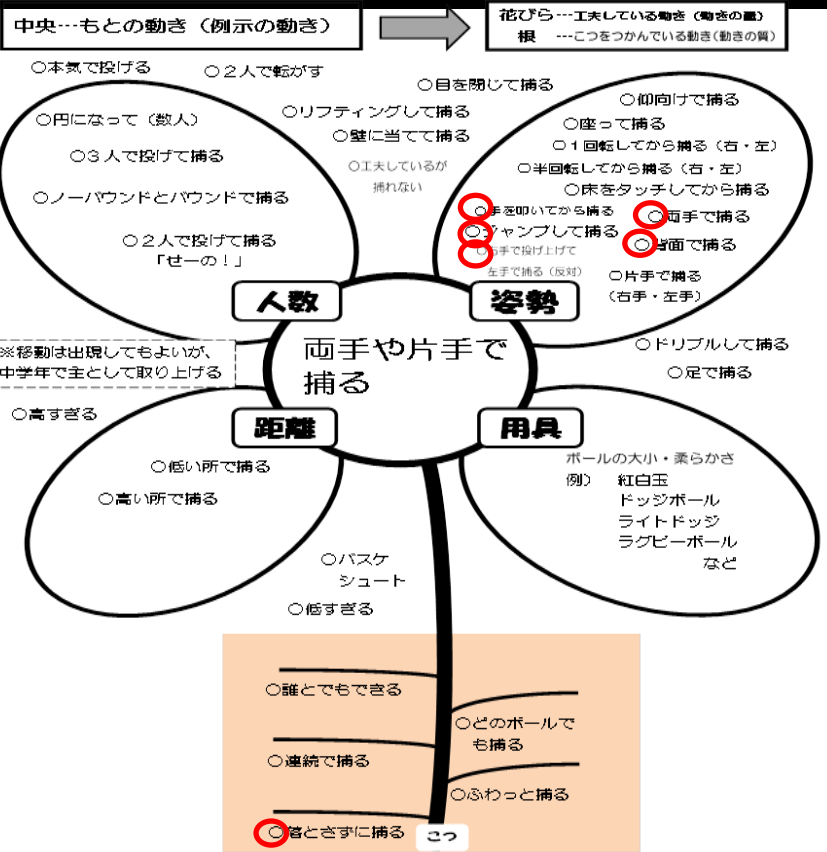
例：共有①『ボールを落とさずに捕っている』
【運動のこつ】

- これからたくさんの工夫が出てきてほしいな。まずは、多くの児童ができてそうな易しい動きを取り上げよう。

例：共有②『手を叩いてから捕る』
『ジャンプして捕る』
【運動の工夫】

足立区立中川東小学校

工藤教諭



- ボールを落とさないで捕ろうという姿が増えた。

- 拍手して捕る動きの真似をしてやろうとする児童がいた。

- 体ジャンケンをして勝った児童からボールを取りに行くようにしたことで、安全に楽しい雰囲気のまま、ボールを使った運動遊びに入れた。

- △バスケットゴールにシュートしたり、ドリブルしたりする児童が出現した。

- △児童同士の感覚が近いので、周りを確認して運動遊びができるように言葉掛けして行こう。

だから・・・

次回の授業は…

- ・次回の授業も動きが雑にならないように、まずうまく捕るためのこつを共有しよう。
- ・共有した動き「拍手して捕る」が広がった。2回・3回拍手というような工夫も出現した。次回は、床にタッチする動きやその場で回って捕るなどの動きの工夫をもっと広げていこう。
- ・遊ぶ前に周りの安全に気を付けている子をほめよう。

教師のねらい・意図

○まずは、自由にボールで遊ばせよう。
○前時は、一人一人の動きが小さくなってしまっていたから、ダイナミックな動きができるようになっていくといいな。

例：共有①『手を叩く回数を増やして捕る』
【運動の工夫】

○前時には、2人でやっていたから、遊び方を変えている児童がいたら共有しよう。

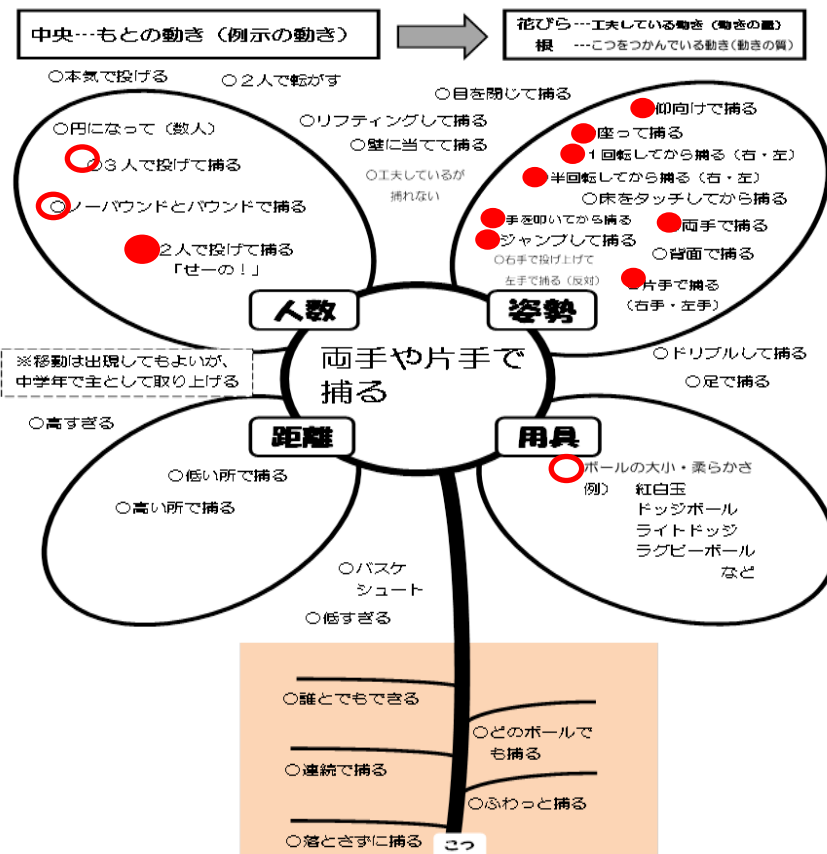
例：共有②『ノーバウンドとバウンドで捕る』
【運動の工夫】

品川区立豊葉の杜学園

諸星教諭



児童の姿（プレ授業の様子・自評）



- 床をタッチする回数や回転する回数を増やしてボールを捕る児童が増えた。必然的にボールを高く投げ上げ、動きがダイナミックになった。
 - 2人組でノーバウンドとバウンドで捕ることができる児童が増えた。
△2人組で行うことで、ボールを投げ上げる動きが難しくなり、雑になってしまった。
- ボールについてひもがあることで高さに着目して投げて捕る児童がいた。
○いろいろなボールで試す児童が増えた。
○「ちょっと見てて。」と友達と見合おうとする児童が増えた。

次回の授業は…

- ・回数やボールに付けたひもを意識させることで、投げ上げる高さに着目させることができた。
- ・次時は、歌に合わせてやらったり、ゲームをしたりしてやってみよう。
- ・次時は、「いろいろなボールでもできるかな。」ということをもう少し意識させよう。
- ・2人組でも姿勢を工夫してやっている児童がいたから、紹介して動きを共有しよう。
- ・友達にこつを聞いたり、友達のかわいいところを見付けたりしている児童がいたから紹介しよう。
- ・何回もやること、連続でできることの大切さも伝えていこう。

だから

○まずは、自由にボールで遊ばせよう。
○上手に投げている○○さんを手本にして、投げるこつを共有しよう。

例：共有①『手の平を上に向けて投げている』
【運動のこつ】

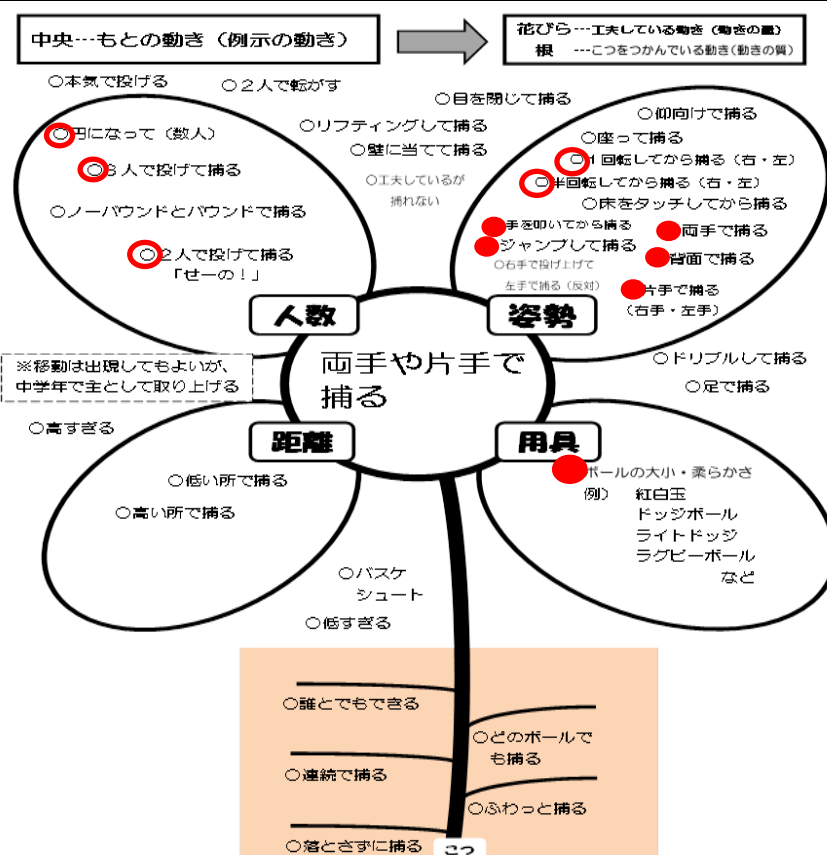
○友達と一緒にやる楽しさも広げていこう。

例：共有②『2人で投げて捕る』
【運動の工夫】



足立区立中川東小学校

工藤教諭



- 手の平の向きを共有したところ、真上に投げられる児童が増えた。
 - 人数の工夫を共有したところ、ほとんどの児童が真似していた。
- お互いに声を掛け合いながら、友達と一緒に工夫する姿があった。
- 児童全員が上に投げたボールを両手で捕ることができた。
△途中で動きが停滞してしまった。人数の工夫を全体で紹介することで雰囲気が変わった。意欲が持続する仕掛けをしていく必要がある。
△もっといろいろな友達とやらせたい。

次回の授業は…

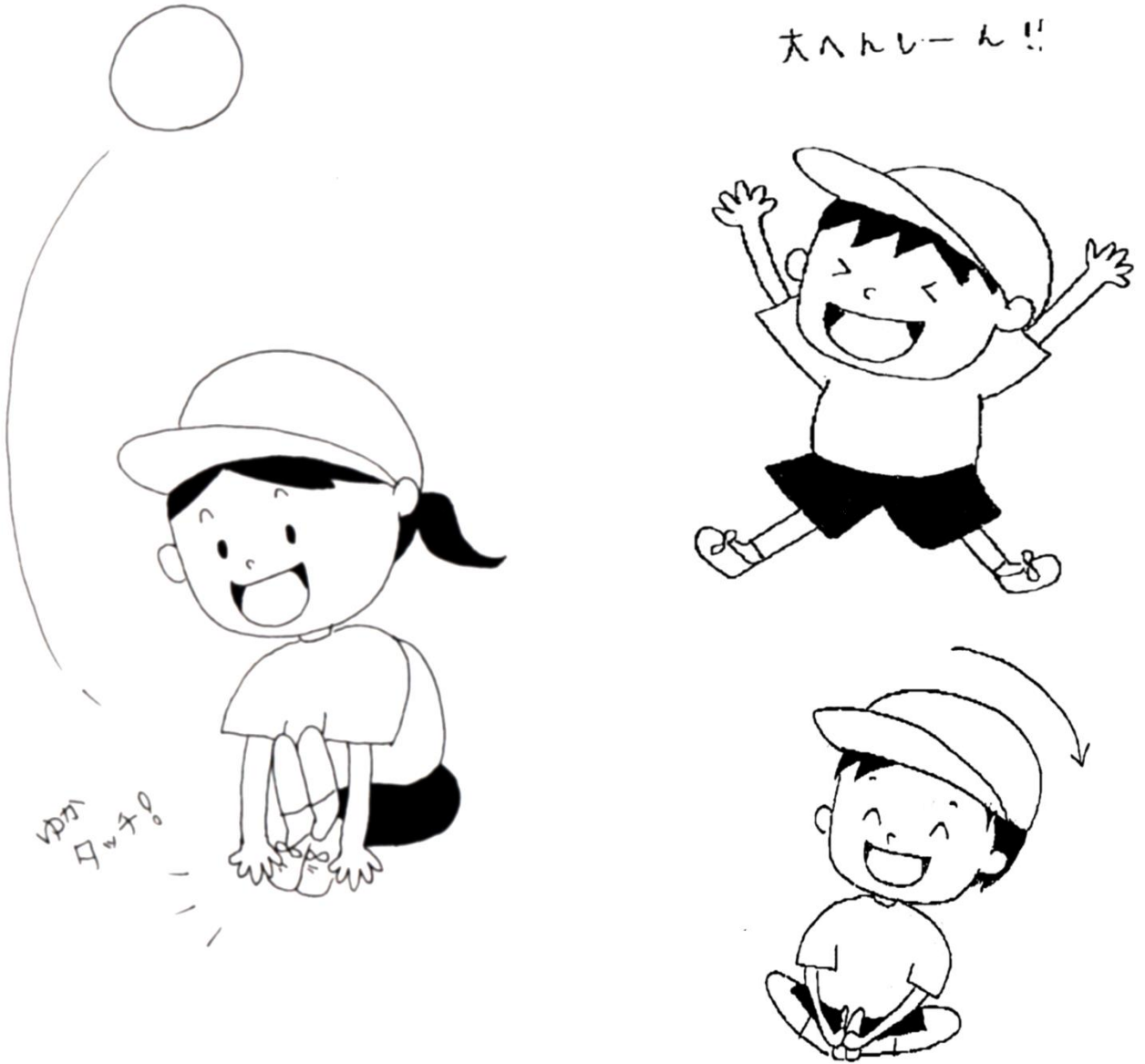
- ・高い位置や低い位置で捕る動きが出てくるようにしましょう。高い位置は5階、低い位置は1階といった具合に「エレベーターゲーム」と命名して広げていこう。
- ・本時では、2人で投げて捕る動きが出現した。この動きに、「手を叩いてから捕る」など工夫した動きを付け足すように広げていこう。
- ・いつでもどこでもだれとでも、なかよくできるようにさせよう。

だから…

平成 29 年度 東京都小学校体育研究会夏季合同研究会 多様な動きをつくる運動（遊び）領域部会

東京都小学校体育研究会 研究主題

三つの資質・能力の関係性を明確にし、
運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成



【本日の講師】

江東区教育委員会 指導主事
金指 大輔 先生

【実証授業】

授業日 平成 29 年 9 月 28 日（木）
場 所 墨田区立業平小学校
(最寄駅：京成線・浅草線・半蔵門線押上駅、東武伊勢崎線とうきょうスカイツリー駅)
授 業 体づくり運動
「多様な動きをつくる運動遊び・運動」
授業者 第 2 学年〇組 大野 大輔教諭
第 3 学年〇組 三上 祐典教諭

1 研究の内容

(1) 研究の視点1 「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

本部会では、三つの資質・能力は、児童がもともと持っているとして捉えている。この三つの資質・能力のうち、本部会でもっとも大切にしている資質・能力は、「学びに向かう力,人間性等」である。児童が多様な動きを身に付けていく動機となるのは、運動（遊び）のもつ楽しさを十分味わうことと考えているからである。

児童の「やってみよう!」「おもしろそう!」という運動欲求に火をつけ、充足させる。「もっとやってみよう」「何回できるかな」「〇〇さんと一緒にできるかな」という児童の意欲を引き出す。そして、「もっとやりたい!」「次はこれができるようになりたい」という次時へ意欲を膨らませていく。児童の意欲を持続させ、様々な運動（遊び）に取り組ませていくことで、結果として、楽しく体の基本的な動きを身に付けていくことができると考える。

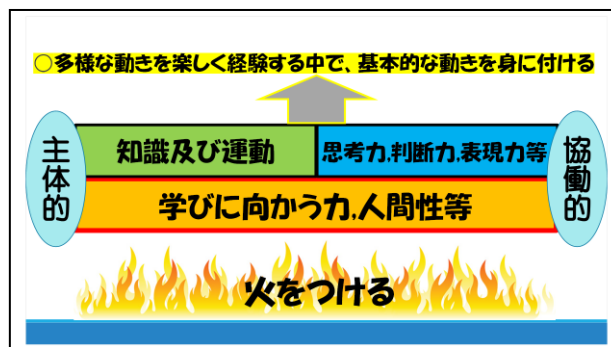


図1 (三つの資質・能力イメージ図)

このように、「学びに向かう力,人間性等」を土台として、「知識及び運動」「思考力,判断力,表現力等」の三つの資質・能力をバランスよく育てていきたいと考えている。(図1)

以上のことを踏まえ、今年度実証授業を行う第2学年及び第3学年における、三つの資質・能力の具体的な学習状況を以下のように整理した。(図2)

三つの資質・能力の具体的な学習状況			
	知識及び運動	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
	楽しい運動(遊び)と出会い、体の基本的な動きができる	試行錯誤を繰り返し、課題を解決するために友達と関わり、伝え合う	いつでも・どこでも・誰とでも、楽しく運動し、前向きに学習に取り組む
第2学年	ボールを落とさないで捕ることができたよ。	どうやってやるとうまくいくのかな?	やってみよう! 友達とも一緒にやりたいな!
第3学年	投げ上げたボールを移動しながら捕ることができたよ。	「こつは何? 教えて?」 「こうやるんだよ。」	もっとうまくできるようになりたい! みんなでやると楽しいね。

図2 三つの資質・能力の具体的な児童の姿例

(2) 研究の視点2 「三つの資質・能力の関係性を踏まえた学習過程の在り方」についての考え方

三つの資質・能力の具体的な学習状況を考えたときに、学習過程は切り離して考えることはできないと考えた。そこで、1学期に行った第1学年の授業実践では、単元の序盤・中盤・終盤における教師の働き掛け、一単位時間における教師の重点的な支援、第2時と第3時をつなぐ教師の働き掛けなど、児童の学習状況に応じて、教師のアプローチの仕方が異なることが分かった。

これらの実践から分かったことを踏まえ、昨年度作成した「よい動きの花を使った授業づくりのための一案」としてまとめた。教師が授業を振り返り、出現した児童の姿を工夫の視点（動きの量）ごとに整理し、次時の授業のねらいや意図を明確にするために活用したいと考える。(図3)

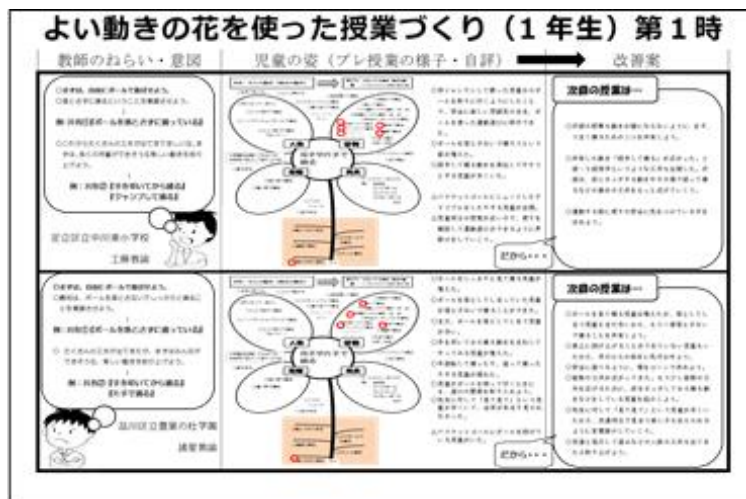


図3 よい動きの花を使った授業づくり一案

(3) 研究の視点3 「三つの資質・能力を育むための指導と評価」についての考え方

三つの資質・能力の具体的な学習状況を示すとともに、その手だてを明確にして有効性を追えば、それが評価につながる。3つの研究の視点は全て連動させて考えていく必要があると考える。

(4) 学習を促す手だてなど

これまでの本部会の研究の成果や新しい学習指導要領の考え方をもとに、手だてを考えた。特に、今年度は、「主体的」な姿はもちろん、「協働的」に取り組む児童の姿にも迫りたい。

○主に「主体的」に取り組む児童を育むために

(1) 「楽しさの散りばめ」

様々な多様な楽しさエキスを 45 分間の中に散りばめていく。

- ・学習環境 (単元設定、場や用具の工夫)
- ・学習に勢いを生む導入の工夫 (開始8分間)
- ・歌遊び
- ・合言葉 (パンパン ナイス!)・ハイタッチ

(2) 児童の「学びに向かう力,人間性等」に着目した指導計画の再構築

楽しい運動 (遊び) との出会い、できるようになりたい動きに取り組む、振り返り及び次時へのつなぎという学習の流れを組む。

- ・一単位時間
- 「やってみる」→「工夫する」→「もう一度取り組む」
- ・学習過程
- 「やってみる」→「工夫する」

○主に「協働的」に取り組む児童を育むために

(1) よい動きを共有する時間の充実

活動の途中におけるこの時間の中身や取り扱い方をより明確にしていく。

- ・いつ
- ・どこで
- ・何を
- ・どんなふうに

(2) 伝え合う活動の展開

友達を考えや取組を認め、そのよさを他者に表出できるように促していく。

- ・低学年…先生 ⇄ 児童 (児童 ⇄ 児童)
「仲よく助け合う姿」
学習カード
- ・中学年…児童 ⇄ 児童
「励まし合って教え合う姿」
友達とのやりとり

第2学年体育科学習指導案

日 時 平成29年9月28日(木)

5校時(13:35~14:20)

場 所 墨田区立業平小学校 体育館

学 級 第2学年1組

指導者 大野 大輔

(1) 単元の見目標

運 動	体のバランスをとったり、移動したりする動きや、用具を操作したり力試しをしたりする動きを身に付けることができるようにする。
態 度	運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。
思考・判断	多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知り、友達のよい動きを見付けることができるようにする。

(2) 単元の評価規準

観 点	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
運動への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①運動に進んで取り組もうとしている。 ②きまりを守り、友達と仲よく運動しようとしている。 ③友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ④運動をする場や用具の使い方などの安全を確かめようとしている。
運動についての 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 体ほぐしの運動の行い方を知るとともに、友達と一緒に運動したり用具を使って運動したりするなど、運動の行い方を選んでいる。 多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知り、友達のよい動きを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①運動の行い方を知っている。 ②友達のよい動きを見付けている。
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> 体のバランスをとったり、移動したりする動きや、用具を操作したり力試しをしたりする動きを身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①姿勢や方向などを変えて、体のバランスをとる動きができる。 ②姿勢や方向、リズムを変えて、体を移動する動きができる。 ③用具を操作し、用具に合わせた動きができる。 ④腕の引き方や押し方、重心のかけ方などを変えて力試しの動きができる。

(3) 単元の指導と評価の計画

時	1	2	3	4	5☆	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
段階	やってみる 工夫する		やってみる 工夫する				やってみる 工夫する		やってみる 工夫する		やってみる 工夫する				やってみる 工夫する				やってみる 工夫する			
学習内容	○めあて確認 ○準備運動		○めあて確認○準備運動				○めあて確認○準備運動		○めあて確認○準備運動				○めあて確認○準備運動				○めあて確認○準備運動					
	○1人でできる 手軽な運動遊び ・『シンクロウォー キング』 先頭の真似をし て歩く		○体のバランスをとる運動遊び ・回る・保つ：『バレリーナ』『フラミンゴ』 ・寝ころぶ・起きる：『バスにのってゆられてる』 ・座る・立つ：『しあわせなら手をたたこう』				○用具を操作する運動遊び「ボール」 ・運ぶ・つかむ・もつ・おろす・まわす 『ボール運びリレー』 『ボールギャザーゲーム』		○力試しの運動遊び ・押す・引く・力比べ：『いとまき』 ・運ぶ・支える：『チクタク』				○体を移動する運動遊び ・這う・歩く・走る：『ドーンジャンケンポン』 『だるまさんがころんだ』 ・跳ぶ・はねる：『陣取りジャンケン』									
	○2～3人でできる 手軽な運動遊び ・『キセキの数』 ゲーム感覚で2 人組をつくる。 ・『ご案内します』 友達と肩をつけ合い 歩いて案内する。 ・『むすんでひらいて』 歌遊びにのせて友 達と触れ合う。		○用具を操作する運動遊び 「ボール」 やってみる 投げる・捕る ↓ 自分のやりたい運動遊びに取り組む				○用具を操作する運動遊び 「竹馬」 「長縄」 やってみる 補助付きで乗る ↓ くだる・跳ぶ ↓ 自分のやりたい運動遊びに取り組む		○用具を操作する運動遊び 「輪」 やってみる 回す ↓ 転がす ↓ 自分のやりたい運動遊びに取り組む				○用具を操作する運動遊び 「短縄」 やってみる 跳ぶ ↓ 自分のやりたい運動遊びに取り組む									
	○グループでできる 手軽な運動遊び ・『おとさずがんバ ルーン』 グループで手をつな ぎ、風船を落とさな いようする。		【工夫した動き】 ・床にタッチして捕る ・片手で捕る・逆の手で捕る ・低い高い位置で捕る ・友達と動きを合わせて捕る ・友達とハイタッチして捕る				【工夫した動き】 ・友達と進む ・コースを作る ・横向きで進む		【工夫した動き】 ・入る方向を変え る ・走り抜ける ・回転しながら				【工夫した動き】 ・バックスピン ・友達と一緒に転がす									
	○全員でできる手 軽な運動遊び ・『なべなべそこぬけ』 手をつないで歌 遊びにのせて表 裏をかえる。 2人→グループ →全員		よい動きを共有する時間 ↓ もう一度取り組む				よい動きを共有する時間 ↓ もう一度取り組む		よい動きを共有する時間 ↓ もう一度取り組む				よい動きを共有する時間 ↓ もう一度取り組む									
	○後片付け ○整理運動・振り返り		○後片付け ○整理運動・振り返り				○後片付け ○整理運動・振り返り		○後片付け ○整理運動・振り返り				○後片付け ○整理運動・振り返り									
	評価の重点	関心・ 意欲・ 態度		①④	②③		①	③④		②③	①	①④	②③		①④	②③		①④	②③			①
思考・ 判断				①		②		①		②		①	②		①	②			①	②		
運動の 技能				①③			①③	③		③				③④			③④			②③		②③

(4) 学習過程 (第2学年「多様な動きをつくる運動遊び」)

時	3	4	5 (本時)	6	7
段階	やってみる する 工夫				
学習内容・一単位時間の展開	2分	○あいさつ・めあての確認 (3観点) いろいろな動きをやってみよう！ 友達のよい動きを見付けよう！ ボールで遊ぼう！ 学習の流れ、3観点におけるポイントを掲示する。 各時間の重点となる観点を中心に学習を進める。			
	5分	○準備運動			
	8分	○体のバランスをとる運動遊び			
	24分	○用具を操作する運動遊び (ボール) いろいろな動きをやってみる ↓ 自分のやりたい運動遊びに取り組む ↓ ○よい動きを共有する時間 ・いつ：タイミング…始まってすぐ、しばらくたって、動きの広がりが無い時 等 ・どこで：共有する対象…その場で、集合させて、グループごとで、全体で ・何を：中身…3観点の内容について ㊦安全に楽しく取り組む姿、進んで運動に取り組む姿 ㊧友達の動きのよさへの気付き ㊨こつをつかんでいる動き、工夫した動き } よい動きだけでなく、3観点で取り上げる。 ・どのように：取り上げる対象…特定児童、一部の児童、全員 等 取り上げ方…教師主導、インタビュー形式、友達とのやりとり 等 ↓ もう一度取り組む			
	6分	○後片付け・整理運動・振り返り (3観点)			
関・意・態	①④	②③			①
思・判			①	②	
運動の技能		①③			①③
指導と評価の工夫	○「関心・意欲・態度」は、第1時で安全に楽しく取り組んでいるかを評価し、第5時で進んで運動に取り組んでいるかを評価する。 ○「思考・判断」は、運動の行い方の工夫の広がりを見取るために連続で評価する。 ○「運動」は単元の最初に動きが身に付いているかどうか学習状況を把握し、指導の改善に生かす。そして、単元の最後にもう一度評価し、動きが身に付いたかどうか評価する。				

(5) 一単位時間の流れ

第2学年「多様な動きをつくる運動遊び」(5/22時間)

①本時のねらい

【思考・判断】友達のよい動きを見付けることができるようにする。

②本時の展開

学習活動	指導のポイント	評価
<p>1 めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">ともだちの よいごきを みつけよう！</div> <p>2 準備運動をする。 ～ 『へんしんせんたい ナリヒレンジャー』 ～ ○ロケット (しゃがんでジャンプ) ○おすもうさん (しこをふむ) ○ドリル (足首を回す)</p>	<p>○学習の流れを確認するとともに、前時の児童のよかった姿を【運動】【態度】【思考・判断】の3観点から紹介する。</p> <p>○心と体をスイッチオンできるように、元気に声を出したり、友達と関わったりしながら行う。</p>	
<p>3 「体のバランスをとる運動遊び」に取り組む。 ○バレリーナ (片足で回転) ○フラミンゴ (片足でバランスを保つ) ○『バスにのってゆられてる』(ねころぶ・起きる) ○『幸せなら手をたたこう』(すわる・たつ) ○『忍者』(回る)</p>	<p>○歌遊び『変身変身大変身』を取り入れて、楽しい雰囲気で行う。[主(1)]</p> <p>○よい動きをしている児童を称賛し、ポイントを全体に紹介する。</p> <p>○「いつでも、どこでも、誰とでも」を合言葉に仲よく安全に運動できるように言葉掛けをする。[主(1)]</p>	
<p>4 「用具を操作する運動遊び」に取り組む。 ○投げる、捕る動きをやってみる。(ボール)</p> <div style="text-align: center;">↓</div> <p>○めあてをもって取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>◎よい動きを共有する時間 [協(1)] いつ:しばらくたって どこで:全体で集合させて 何を:友達のよい動きを見付けて称賛していることをどのように:特定児童へのインタビュー形式で</p> <p>「よい動きを見付けている子を紹介します。なんて言っているか聞いてみましょう。」</p> </div> <div style="text-align: center;">↓</div> <p>○もう一度取り組む。</p> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>◎よい動きを共有する時間 [協(1)] いつ:しばらくたって どこで:全体で集合させて 何を:友達と一緒に遊んでいること(遊び方)をどのように:一部の児童の友達とのやりとりを見せることで</p> <p>「友達と一緒に動きを遊んでいる友達を紹介します。」 「一緒に『ロケットはっしゃ!』をしよう!」「いいよ!」</p> </div> <div style="text-align: center;">↓</div> <p>○もう一度取り組む。</p>	<p>○周りや、場の安全に気を付けて運動するように言葉掛けをする。</p> <p>○遊びこむ時間を十分に確保する。[主(2)]</p> <p>○上手い出来ない児童には、動きのポイントについて言葉を掛け、教師も一緒に行い、支援する。</p> <p>○友達と関わり合ってハイタッチをしたり、アドバイスし合ったりしている児童を称賛することで、学び合いを自然発生的に広める。[主(1)][協(2)]</p> <p>○動きができていない児童には、さらに工夫して運動したり、スムーズに動いたりできるように促す。</p> <p>○やってみよう動きをもう一度取り組む時間も大切にする。[主(2)]</p> <p>○姿勢、シンクロなどの工夫をしている児童を称賛し、広めるようにする。[協(1)]</p> <p>○運動の途中でよい動きを共有する時間を設定し、動きを工夫している児童を紹介し、全体に価値付ける。[協(1)]</p> <p>○「みつけた!」という全員で称賛する合言葉や、「おしえて!」というインタビューをする合言葉を教師が活用することで、自然と学び合いを生むようにする。[主(1)][協(2)]</p>	<p>☆友達のよい動きを見付けている。 【思考・判断】(観察・発言・学習カード)</p>
<p>5 後片付け・整理運動・振り返りをする。</p>	<p>○落ち着いてクールダウンをし、使った部位をほぐすように言葉掛けする。歌は『みんながみんな英雄(AI)]を使用する。</p> <p>○【運動】【思考・判断】【関心・意欲・態度】の3観点でよかったことを振り返る。</p>	

第3学年体育科学習指導案

日 時：平成29年9月28日（木）

5校時（14：25～14：55）

場 所：墨田区立業平小学校 体育館

学 級：第3学年1組34名

指導者：三上 祐典

※本時は、用具を操作する運動（ボール）のみ30分を行います。

（1）単元の目標

運 動	体のバランスをとったり、移動したりする動きや、用具を操作したり力試しをしたりする動きを身に付けるとともに、それらを組み合わせることができるようにする。
態 度	運動に進んで取り組み、きまりを守り友達と仲よくしたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
思考・判断	多様な動きをつくる運動の行い方を知り、友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れることができるようにする。

（2）単元の評価規準

観点	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
運動への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 運動に進んで取り組み、きまりを守り、仲よく運動をしようとしたり、場や用具の安全に気を付けたりしながら運動しようとする。 	<ol style="list-style-type: none"> ①運動に進んで取り組もうとしている。 ②きまりを守り、励まし合って運動しようとしている。 ③友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ④運動をする場や用具の使い方などの安全を確かめようとしている。
運動についての 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 体ほぐしの運動の行い方を知るとともに、友達と一緒に運動したり用具を使って運動したりするなど、運動の行い方を選んでいる。 多様な動きをつくる運動の行い方を知るとともに、友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れたり、動きの組み合わせ方を選んだりしている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①運動の行い方を知っている。 ②友達のよい動きを見付け、自分の動きに取り入れている。 ③動きの組み合わせ方を選んでいる。
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> 体のバランスや移動、用具の操作、力試しの動きとともに、それらを組み合わせたりすることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①姿勢や方向を変えて、体のバランスをとる動きができる。 ②姿勢や方向、リズムを変えて体を移動する動きができる。 ③用具を操作し、用具に合わせた動きができる。 ④腕の引き方や押し方、重心のかけ方などを変えて力試しの動きができる。 ⑤基本的な動きを組み合わせた動きができる。

(3) 単元の指導と評価の計画

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18					
段階	やってみる 工夫する		やってみる 工夫する		やってみる 工夫する		やってみる 工夫する			やってみる 工夫する				やってみる 工夫する									
学習内容	○めあての確認 ○準備運動		○めあての確認 ○準備運動				○めあての確認 ○準備運動			○めあての確認 ○準備運動				○めあての確認 ○準備運動									
	○一人でできる律動的な運動 ・いろいろウォーキング リズムに合わせて移動して、すれ違った友達とハイタッチをする。 ・五歩鬼		○体を移動する運動 「這う・歩く・走るなどの動き」 「跳ぶ・はねるなどの動き」 「登る・下りるなどの動き」				○力試しの運動 「人を運ぶ・支える動き」 「人を押す・引く動き」			○体のバランスをとる運動・体を移動する運動 ○基本的な動きを組み合わせる運動 ・じゃんけんすごろく ※これまでの動きから選択して行う				○体のバランスをとる運動 「回る動き・渡る動き」 「寝ころぶ・起きる・座る」 「立つなどの動き」 「バランスを保つ動き」									
	○2～3人でできる手軽な運動 ・ペアでストレッチ 体を伸ばしたり、呼吸を整えたりして、体の調子に気付く。		○用具を操作する運動「Gボール・長なわ」 ○用具に乗る動き「竹馬・一輪車」		○用具を操作する運動 ○基本的な動きを組み合わせる運動 「用具を操作しながら移動する動き」		○用具を操作する運動 ○基本的な動きを組み合わせる運動 「用具を操作しながら移動する動き」			○用具を操作する運動 ○基本的な動きを組み合わせる運動 「用具を操作しながら移動する動き」				○用具を操作する運動 ○基本的な動きを組み合わせる運動 「用具を操作しながら移動する動き」									
			竹馬・一輪車		「Gボール」「長縄」		「ボール」			「短なわ」				「輪」									
			やってみる																				
	○グループでできる手軽な運動 ・風船運び グループで手をつなぎ、風船を落とさずゴールを目指す。		乗る ・補助付きで乗る		乗る ・足でGボールを軽くはさんで乗る 跳ぶ ・8の字で跳ぶ		つかむ・持つ・降ろす・回す・両膝や両足首にはさんで運ぶ		投げ上げたボールを移動して捕る			跳ぶ		移動しながら跳ぶ(組み合わせ)		投げる・捕る・転がす・くぐる ・転がす・くぐる・回しながら歩くに 取り組む		転がす・くぐる ・輪を転がしたりくぐり抜けたりする。		回しながら歩く ・手や腕で輪を回しながら歩く		投げる・捕る 転がす・回しながら歩く	
	○全員でできる手軽な運動 ・だるまさんが止まった「だるまさんが・・・」という代わりにボールを使う。教師がボールを持っているときはストップ、ボールが手から離れているときだけ動ける。ゴールまでたどり着けるようにグループで協力する。 ※グループ→全員		自分のできるようになりたい動きに取り組む		自分のできるようになりたい動きに取り組む		投げ上げたボールを(移動して)捕る		めあてを(自分のやりたい動き)をもって取り組む			いろいろなチャレンジコーナー ・いろいろな跳び方にチャレンジする ・なわをその場で跳ぶ 【工夫した動き】 ・前まわし ・交差跳び ・あや跳び ・後ろ回し跳び ・かけ足 ・片足 ・グーチョキパー ・友達と一緒に など		めあてを(自分のやりたい動き)をもって取り組む		一人ですべてのコーナー ・友達とチャレンジコーナー 条件を変える いろいろなコースを作って跳びながら移動する 一緒に跳びながら進む ・シンクロコーナー(第13時～) 同じ跳び方で一緒に跳ぶ 方向を変えて跳ぶなど 今までの跳び方を選んで跳ぶ 【工夫した動き】 ・進む距離や条件を変えて進む ・友達とタイミングを合わせてかけ足跳び ・友達が回したなわに入って跳ぶ ・ステップを変えて跳ぶ など ※もっとやってみよう動きを選んで取り組む など		めあてをもって取り組む(自分のやりたい動き)をもって取り組む。		めあてをもって取り組む(自分のやりたい動き)をもって取り組む。		めあてをもって取り組む(自分のやりたい動き)をもって取り組む。	
			○よい動きを共有する時間																				
			もう一度取り組む																				
	○後片付け ○整理運動・振り返り		○後片付け ○整理運動・振り返り		○後片付け ○整理運動・振り返り		○後片付け ○整理運動・振り返り			○後片付け ○整理運動・振り返り				○後片付け ○整理運動・振り返り									
評価の重点	関心・意欲・態度	①②		②③		③④		②③④		①	②③④		①	②③④		①		①					
	思考・判断		①		①		②		①	③		②	③		②	③		②	③				
	運動の技能			②	③		③	④⑤		⑤	⑤		②	⑤	①③			⑤					

(4) 学習過程 (第3学年「多様な動きをつくる運動」)

時	7	8 (本時)	9	10
段階	やってみる			工夫する
学習内容・一単位時間の展開	2分	○あいさつ・めあての確認 (3観点)		※学習の流れ、3観点におけるポイントを掲示する。 (それぞれ重点となる観点を中心に学習を進め
		いろいろな動きをやってみよう	動きを工夫して運動し、できる動きを増やそう	
	5分	○準備運動		
	8分	○力試しの運動		
	24分	○用具を操作する運動 (ボール) ○基本的な動きを組み合わせる運動 (ボール)		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">いろいろな動きをやってみる</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分ができるようになりたい動きに取り組む</div> <ul style="list-style-type: none"> ・進む距離や条件を変えて取り組む (スキップ、ケンケン、後ろ向き、など) ・友達と一緒にできる工夫を考え、移動しながら進む。 (2人一緒のタイミングで捕る、円になって、2人で投げて捕るなど) <p>※学習の状況によっては、場を設定することも可。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠く遠くコーナー ・友達と一緒にコーナー ・プラス○○コーナー <div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>○よい動きを共有する時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ：タイミング・・・始まってすぐ、しばらくたって、動きの広がりがない時 等 ・どこで：共有する対象・・・その場で、集合させて、グループごとで、全体で ・何を：中身・・・3観点の内容について <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ㊦安全に楽しく取り組む姿、進んで運動に取り組む姿 ㊦友達の動きのよさへの気付き ㊦こつをつかんでいる動き、工夫した動き <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; font-size: 2em;">}</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; flex-grow: 1;">よい動きだけでなく、3観点で取り上げる。</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように：取り上げる対象・・・特定児童、一部の児童、全員 等 取り上げ方・・・教師主導、インタビュー形式、友達とのやりとり 等 </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">もう一度取り組む</div>		
	6分	○後片付け・整理運動 ○振り返り (3観点)		
関・意・態	③ ④	②		①
思・判		① ②	② ③	
運動の技能	③ ④ ⑤			④ ⑤
指導と評価の工夫	<p>○「関心・意欲・態度」は、第1時で安全に楽しく取り組んでいるかを評価し、第4時で運動に進んで取り組もうとしているかを評価する。</p> <p>○「思考・判断」は、運動の行い方の工夫の広がりを見取るために連続で評価する。</p> <p>○「運動」は単元の最初に動きが身に付いているかどうか学習状況を把握し、指導の改善に生かす。そして、単元の最後にもう一度評価し、指導の改善によって動きが身に付いたかどうかを評価する。</p>			




(5) 一単位時間の流れ

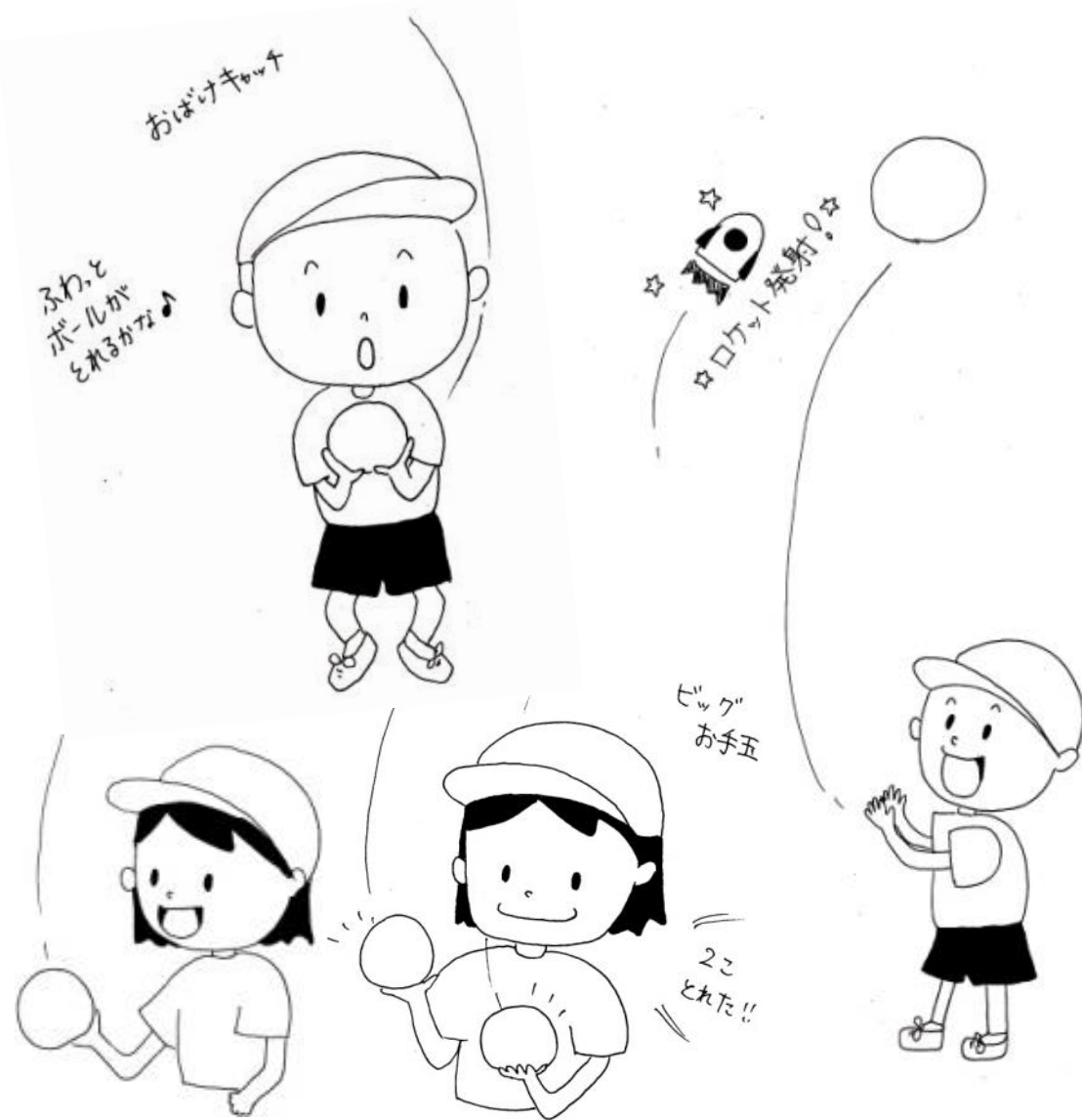
第3学年「多様な動きをつくる運動」(8/18時間)

①本時のねらい

【思考・判断】友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れたりすることができるようにする。

②本時の展開

学習内容・活動	指導のポイント	評価
<p>1 めあてを確認する。</p> <p>動きを工夫して運動し、できる動きを増やそう</p> <p>2 準備運動をする。</p>	<p>○学習の流れを確認するとともに、前時の児童のよかった姿を、【運動】【態度】【思考・判断】の3観点から紹介する。</p> <p>○心と体をスイッチオンできるように、いろいろな動きをして体の部位をほぐす。[主(1)]</p>	
<p>3 「力試しの運動」に取り組む。</p>	<p>○よい動きをしている児童を称賛し、ポイントを全体で紹介する。</p> <p>○「いつでも、どこでも、だれとでも」を合言葉に仲よく安全に運動できるように言葉掛けをする。[主(1)]</p>	
<p>4 「基本的な動きを組み合わせる運動」に取り組む。</p> <p>○ボールを投げ上げて移動して捕る動きをやってみる</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>○めあてをもって取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進む距離や条件を変えて進む。(スキップ、ケンケン、後ろ向き、など) ・友達と一緒にできる工夫を考え、移動しながら進む。 <p>(2人一緒にタイミングで捕る、円になって、2人で投げて捕るなど)</p> <p>※学習の状況によっては、場を設定することも可。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠く遠くコーナー ・友達と一緒にコーナー ・プラス○○コーナー <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎よい動きを共有する時間 [協(1)]</p> <p>いつ：しばらくたって</p> <p>どこで：全体で集合させて</p> <p>何を：友達のよい動きを見付けてこつを聞きあっていることを</p> <p>どのように：一部の児童の友達とのやりとりを見せることで</p> <p>「よい動きを見付けてこつを聞きあっている子を紹介します。なんて言っているか聞いてみましょう。」</p> </div> <p style="text-align: center;"></p> <p>○もう一度取り組む</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎よい動きを共有する時間 [協(1)]</p> <p>いつ：しばらくたって</p> <p>どこで：全員を集合させて</p> <p>何を：友達と一緒に工夫していることを</p> <p>どのように：一部の児童のやりとりを見せることで</p> <p>「友達と一緒に動きを工夫している友達を紹介します。」</p> <p>「一緒に○○をしよう!」「いいよ!」</p> </div> <p style="text-align: center;"></p> <p>○もう一度取り組む。</p>	<p>○友達と関わり合ってハイタッチをしたり、アドバイスをし合ったりしている児童を称賛する。[主(1)] [協(2)]</p> <p>○運動する時間を十分に確保する。 [主(2)]</p> <p>○運動の行い方がわからない児童には、掲示物や周りの友達の様子に注目させるようにする。</p> <p>○うまくいかない児童には、動きのポイントについて言葉を掛け、教師も一緒に行い、支援する。</p> <p>○上手な友達を見付けている児童を称賛し、まねしてみるように促す。[協(2)]</p> <p>○運動の途中でよい動きを共有する時間を設定し、動きを工夫している児童を紹介することで、全体に価値付ける。 [協(1)]</p> <p>○友達と一緒に工夫している児童や、友達とこつなどを伝え合っている児童を称賛して、全体で紹介する。[協(2)]</p> <p>○よい動きには、「こつやポイントにつながる」「工夫している」「上手な友達に目を向ける」の視点で紹介する。 [協(1)]</p> <p>○やってみよう動きをもう一度取り組む時間も大切にする。[主(2)]</p>	<p>☆運動の行い方を知り、友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>(観察・発言・学習カード)</p>
<p>5 後片付け・整理運動をする。振り返りをする。</p>	<p>○落ち着いてクールダウンをし、使った部位をほぐすように言葉掛けする。</p> <p>○【運動】【思考・判断】【関心・意欲・態度】の3観点でよかったことを振り返る。</p>	



実証授業のご案内

1 日時 平成 29 年 9 月 28 日 (木)
 受付開始 13 : 00 ~
 授業開始 13 : 35 ~

2 会場 墨田区立業平小学校
 墨田区業平 2 丁目 4 番 8 号
 03-3625-0331

京成線 浅草線 半蔵門線 押上駅 下車徒歩 5 分
 東武スカイツリーライン 東京スカイツリー駅 下車徒歩 8 分
 JR 総武線 錦糸町駅 下車徒歩 15 分

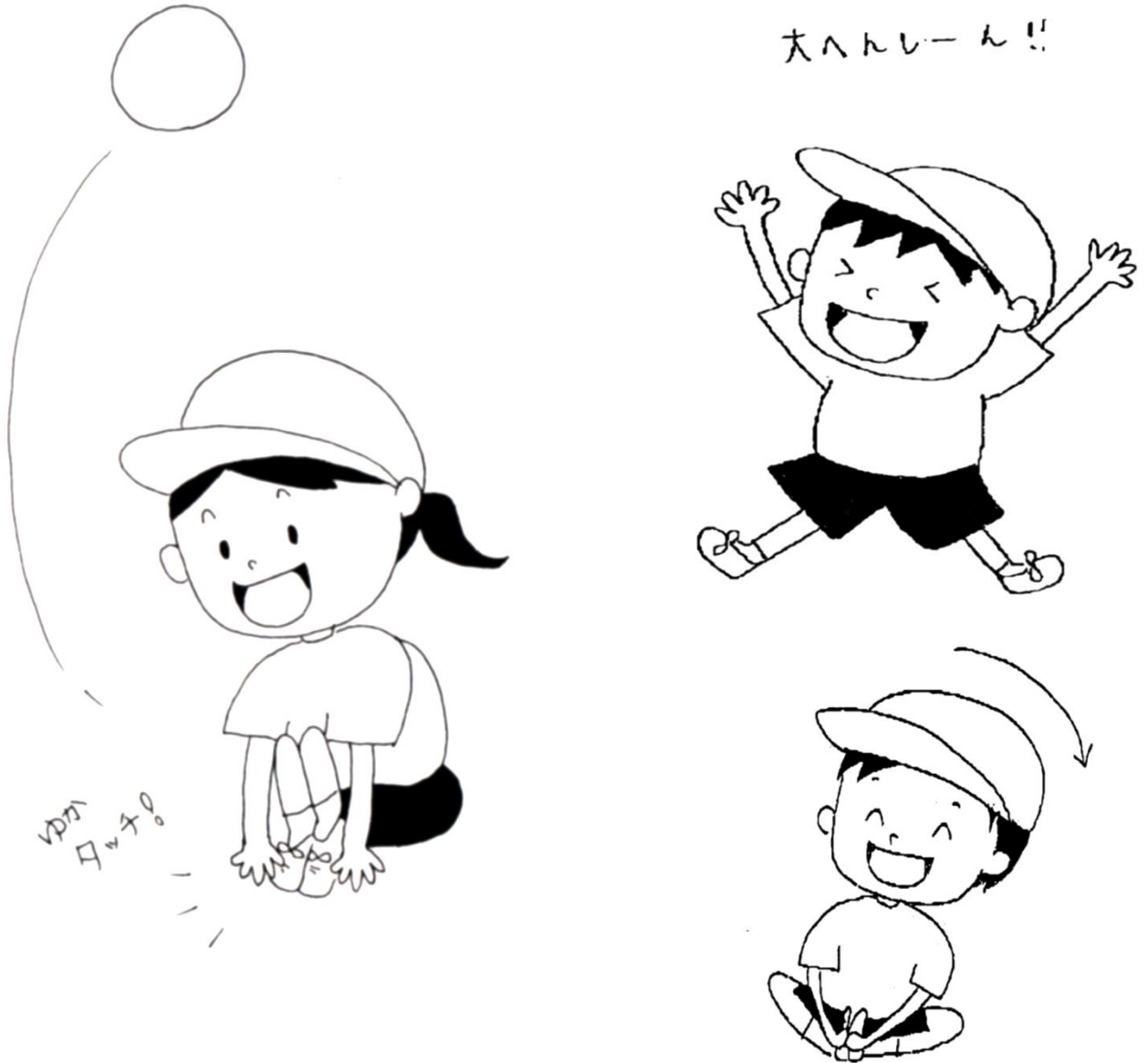
3 授業者 2 年生 大野 大輔 教諭 (足立区立綾瀬小学校)
 3 年生 三上 祐典 教諭 (墨田区立業平小学校)



平成 29 年度 東京都小学校体育研究会夏季合同研究会 多様な動きをつくる運動（遊び）領域部会

東京都小学校体育研究会 研究主題

三つの資質・能力の関係性を明確にし、
運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成



【本日の講師】

江東区教育委員会 指導主事
金指 大輔 先生

【実証授業】

授業日 平成 29 年 9 月 28 日（木）
場 所 墨田区立業平小学校
(最寄駅：京成線・浅草線・半蔵門線押上駅、東武伊勢崎線とうきょうスカイツリー駅)
授 業 体づくり運動
「多様な動きをつくる運動遊び・運動」
授業者 第 2 学年〇組 大野 大輔教諭
第 3 学年〇組 三上 祐典教諭

1 研究の内容

(1) 研究の視点1 「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

本部会では、三つの資質・能力は、児童がもともと持っているとして捉えている。この三つの資質・能力のうち、本部会でもっとも大切にしている資質・能力は、「学びに向かう力,人間性等」である。児童が多様な動きを身に付けていく動機となるのは、運動（遊び）のもつ楽しさを十分味わうことと考えているからである。

児童の「やってみよう!」「おもしろそう!」という運動欲求に火をつけ、充足させる。「もっとやってみよう」「何回できるかな」「〇〇さんと一緒にできるかな」という児童の意欲を引き出す。そして、「もっとやりたい!」「次はこれができるようになりたい」という次時へ意欲を膨らませていく。児童の意欲を持続させ、様々な運動（遊び）に取り組ませていくことで、結果として、楽しく体の基本的な動きを身に付けていくことができると考える。

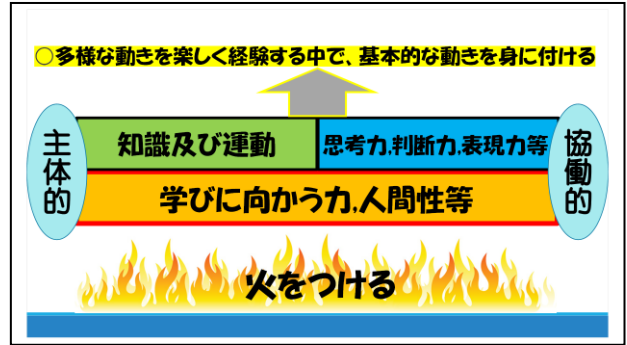


図1 (三つの資質・能力イメージ図)

このように、「学びに向かう力,人間性等」を土台として、「知識及び運動」「思考力,判断力,表現力等」の三つの資質・能力をバランスよく育てていきたいと考えている。(図1)

以上のことを踏まえ、今年度実証授業を行う第2学年及び第3学年における、三つの資質・能力の具体的な学習状況を以下のように整理した。(図2)

三つの資質・能力の具体的な学習状況			
	知識及び運動	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
	楽しい運動(遊び)と出会い、体の基本的な動きができる	試行錯誤を繰り返し、課題を解決するために友達と関わり、伝え合う	いつでも・どこでも・誰とでも、楽しく運動し、前向きに学習に取り組む
第2学年	ボールを落とさないで捕ることができたよ。	どうやってやるとうまくいくのかな?	やってみよう! 友達とも一緒にやりたいな!
第3学年	投げ上げたボールを移動しながら捕ることができたよ。	「こつは何? 教えて?」 「こうやるんだよ。」	もっとうまくできるようになりたい! みんなでやると楽しいね。

図2 三つの資質・能力の具体的な児童の姿例

(2) 研究の視点2 「三つの資質・能力の関係性を踏まえた学習過程の在り方」についての考え方

三つの資質・能力の具体的な学習状況を考えたときに、学習過程は切り離して考えることはできないと考えた。そこで、1学期に行った第1学年の授業実践では、単元の序盤・中盤・終盤における教師の働き掛け、一単位時間における教師の重点的な支援、第2時と第3時をつなぐ教師の働き掛けなど、児童の学習状況に応じて、教師のアプローチの仕方が異なることが分かった。

これらの実践から分かったことを踏まえ、昨年度作成した「よい動きの花を使った授業づくりのための一案」としてまとめた。教師が授業を振り返り、出現した児童の姿を工夫の視点（動きの量）ごとに整理し、次時の授業のねらいや意図を明確にするために活用したいと考える。(図3)

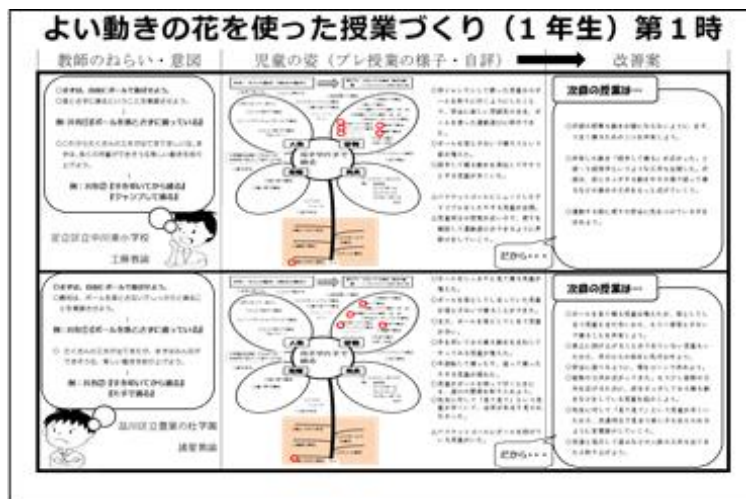


図3 よい動きの花を使った授業づくり一案

(3) 研究の視点3 「三つの資質・能力を育むための指導と評価」についての考え方

三つの資質・能力の具体的な学習状況を示すとともに、その手だてを明確にして有効性を追えば、それが評価につながる。3つの研究の視点は全て連動させて考えていく必要があると考える。

(4) 学習を促す手だてなど

これまでの本部会の研究の成果や新しい学習指導要領の考え方をもとに、手だてを考えた。特に、今年度は、「主体的」な姿はもちろん、「協働的」に取り組む児童の姿にも迫りたい。

○主に「主体的」に取り組む児童を育むために

(1) 「楽しさの散りばめ」

様々な多様な楽しさエキスを 45 分間の中に散りばめていく。

- ・学習環境 (単元設定、場や用具の工夫)
- ・学習に勢いを生む導入の工夫 (開始8分間)
- ・歌遊び
- ・合言葉 (パンパン ナイス!)・ハイタッチ

(2) 児童の「学びに向かう力,人間性等」に着目した指導計画の再構築

楽しい運動 (遊び) との出会い、できるようになりたい動きに取り組む、振り返り及び次時へのつなぎという学習の流れを組む。

- ・一単位時間
- 「やってみる」→「工夫する」→「もう一度取り組む」
- ・学習過程
- 「やってみる」→「工夫する」

○主に「協働的」に取り組む児童を育むために

(1) よい動きを共有する時間の充実

活動の途中におけるこの時間の中身や取り扱い方をより明確にしていく。

- ・いつ
- ・どこで
- ・何を
- ・どんなふうに

(2) 伝え合う活動の展開

友達を考えや取組を認め、そのよさを他者に表出できるように促していく。

- ・低学年…先生 ⇄ 児童 (児童 ⇄ 児童)
「仲よく助け合う姿」
学習カード
- ・中学年…児童 ⇄ 児童
「励まし合って教え合う姿」
友達とのやりとり

第2学年体育科学習指導案

日 時 平成29年9月28日(木)

5校時(13:35~14:20)

場 所 墨田区立業平小学校 体育館

学 級 第2学年1組

指導者 大野 大輔

(1) 単元の見目標

運 動	体のバランスをとったり、移動したりする動きや、用具を操作したり力試しをしたりする動きを身に付けることができるようにする。
態 度	運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。
思考・判断	多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知り、友達のよい動きを見付けることができるようにする。

(2) 単元の評価規準

観 点	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
運動への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①運動に進んで取り組もうとしている。 ②きまりを守り、友達と仲よく運動しようとしている。 ③友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ④運動をする場や用具の使い方などの安全を確かめようとしている。
運動についての 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 体ほぐしの運動の行い方を知るとともに、友達と一緒に運動したり用具を使って運動したりするなど、運動の行い方を選んでいる。 多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知り、友達のよい動きを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①運動の行い方を知っている。 ②友達のよい動きを見付けている。
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> 体のバランスをとったり、移動したりする動きや、用具を操作したり力試しをしたりする動きを身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①姿勢や方向などを変えて、体のバランスをとる動きができる。 ②姿勢や方向、リズムを変えて、体を移動する動きができる。 ③用具を操作し、用具に合わせた動きができる。 ④腕の引き方や押し方、重心のかけ方などを変えて力試しの動きができる。

(4) 学習過程 (第2学年「多様な動きをつくる運動遊び」)

時	3	4	5 (本時)	6	7
段階	やってみる する 工夫				
学習内容・一単位時間の展開	2分	○あいさつ・めあての確認 (3観点) いろいろな動きをやってみよう！ 友達のよい動きを見付けよう！ ボールで遊ぼう！ 学習の流れ、3観点におけるポイントを掲示する。 各時間の重点となる観点を中心に学習を進める。			
	5分	○準備運動			
	8分	○体のバランスをとる運動遊び			
	24分	○用具を操作する運動遊び (ボール) いろいろな動きをやってみる ↓ 自分のやりたい運動遊びに取り組む ↓ ○よい動きを共有する時間 ・いつ：タイミング…始まってすぐ、しばらくたって、動きの広がりが無い時 等 ・どこで：共有する対象…その場で、集合させて、グループごとで、全体で ・何を：中身…3観点の内容について ㊦安全に楽しく取り組む姿、進んで運動に取り組む姿 ㊧友達の動きのよさへの気付き ㊨こつをつかんでいる動き、工夫した動き } よい動きだけでなく、3観点で取り上げる。 ・どのように：取り上げる対象…特定児童、一部の児童、全員 等 取り上げ方…教師主導、インタビュー形式、友達とのやりとり 等 ↓ もう一度取り組む			
	6分	○後片付け・整理運動・振り返り (3観点)			
関・意・態	①④	②③			①
思・判			①	②	
運動の技能		①③			①③
指導と評価の工夫	○「関心・意欲・態度」は、第1時で安全に楽しく取り組んでいるかを評価し、第5時で進んで運動に取り組んでいるかを評価する。 ○「思考・判断」は、運動の行い方の工夫の広がりを見取るために連続で評価する。 ○「運動」は単元の最初に動きが身に付いているかどうか学習状況を把握し、指導の改善に生かす。そして、単元の最後にもう一度評価し、動きが身に付いたかどうか評価する。				

(5) 一単位時間の流れ

第2学年「多様な動きをつくる運動遊び」(5/22時間)

①本時のねらい

【思考・判断】友達のよい動きを見付けることができるようにする。

②本時の展開

学習活動	指導のポイント	評価
<p>1 めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">ともだちの よいごきを みつけよう！</div> <p>2 準備運動をする。 ～ 『へんしんせんたい ナリヒレンジャー』 ～ ○ロケット (しゃがんでジャンプ) ○おすもうさん (しこをふむ) ○ドリル (足首を回す)</p>	<p>○学習の流れを確認するとともに、前時の児童のよかった姿を【運動】【態度】【思考・判断】の3観点から紹介する。</p> <p>○心と体をスイッチオンできるように、元気に声を出したり、友達と関わったりしながら行う。</p>	
<p>3 「体のバランスをとる運動遊び」に取り組む。 ○バレリーナ (片足で回転) ○フラミンゴ (片足でバランスを保つ) ○『バスにのってゆられてる』(ねころぶ・起きる) ○『幸せなら手をたたこう』(すわる・たつ) ○『忍者』(回る)</p>	<p>○歌遊び『変身変身大変身』を取り入れて、楽しい雰囲気で行う。[主(1)]</p> <p>○よい動きをしている児童を称賛し、ポイントを全体に紹介する。</p> <p>○「いつでも、どこでも、誰とでも」を合言葉に仲よく安全に運動できるように言葉掛けをする。[主(1)]</p>	
<p>4 「用具を操作する運動遊び」に取り組む。 ○投げる、捕る動きをやってみる。(ボール)</p> <div style="text-align: center;">↓</div> <p>○めあてをもって取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>◎よい動きを共有する時間 [協(1)] いつ:しばらくたって どこで:全体で集合させて 何を:友達のよい動きを見付けて称賛していることをどのように:特定児童へのインタビュー形式で</p> <p>「よい動きを見付けている子を紹介します。なんて言っているか聞いてみましょう。」</p> </div> <div style="text-align: center;">↓</div> <p>○もう一度取り組む。</p> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>◎よい動きを共有する時間 [協(1)] いつ:しばらくたって どこで:全体で集合させて 何を:友達と一緒に遊んでいること(遊び方)をどのように:一部の児童の友達とのやりとりを見せることで</p> <p>「友達と一緒に動きを遊んでいる友達を紹介します。」 「一緒に『ロケットはっしゃ!』をしよう!」「いいよ!」</p> </div> <div style="text-align: center;">↓</div> <p>○もう一度取り組む。</p>	<p>○周りや、場の安全に気を付けて運動するように言葉掛けをする。</p> <p>○遊びこむ時間を十分に確保する。[主(2)]</p> <p>○上手い出来ない児童には、動きのポイントについて言葉を掛け、教師も一緒に行い、支援する。</p> <p>○友達と関わり合ってハイタッチをしたり、アドバイスし合ったりしている児童を称賛することで、学び合いを自然発生的に広める。[主(1)][協(2)]</p> <p>○動きができていない児童には、さらに工夫して運動したり、スムーズに動いたりできるように促す。</p> <p>○やってみよう動きをもう一度取り組む時間も大切にする。[主(2)]</p> <p>○姿勢、シンクロなどの工夫をしている児童を称賛し、広めるようにする。[協(1)]</p> <p>○運動の途中でよい動きを共有する時間を設定し、動きを工夫している児童を紹介し、全体に価値付ける。[協(1)]</p> <p>○「みつけた!」という全員で称賛する合言葉や、「おしえて!」というインタビューをする合言葉を教師が活用することで、自然と学び合いを生むようにする。[主(1)][協(2)]</p>	<p>☆友達のよい動きを見付けている。 【思考・判断】(観察・発言・学習カード)</p>
<p>5 後片付け・整理運動・振り返りをする。</p>	<p>○落ち着いてクールダウンをし、使った部位をほぐすように言葉掛けする。歌は『みんながみんな英雄(AI)]を使用する。</p> <p>○【運動】【思考・判断】【関心・意欲・態度】の3観点でよかったことを振り返る。</p>	

第3学年体育科学習指導案

日 時：平成29年9月28日（木）

5校時（14：25～14：55）

場 所：墨田区立業平小学校 体育館

学 級：第3学年1組34名

指導者：三上 祐典

※本時は、用具を操作する運動（ボール）のみ30分を行います。

（1）単元の目標

運 動	体のバランスをとったり、移動したりする動きや、用具を操作したり力試しをした りする動きを身に付けるとともに、それらを組み合わせることができるようにする。
態 度	運動に進んで取り組み、きまりを守り友達と仲よくしたり、場や用具の安全に気を 付けたりすることができるようにする。
思考・判断	多様な動きをつくる運動の行い方を知り、友達のよい動きを見付け自分の運動に取り 入れることができるようにする。

（2）単元の評価規準

観点	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
運動への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 運動に進んで取り組み、きまりを守り、仲よく運動をしようとしたり、場や用具の安全に気を付けたりしながら運動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①運動に進んで取り組もうとしている。 ②きまりを守り、励まし合って運動しようとしている。 ③友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ④運動をする場や用具の使い方などの安全を確かめようとしている。
運動についての 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 体ほぐしの運動の行い方を知るとともに、友達と一緒に運動したり用具を使って運動したりするなど、運動の行い方を選んでいく。 多様な動きをつくる運動の行い方を知るとともに、友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れたり、動きの組み合わせ方を選んだりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①運動の行い方を知っている。 ②友達のよい動きを見付け、自分の動きに取り入れている。 ③動きの組み合わせ方を選んでいく。
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> 体のバランスや移動、用具の操作、力試しの動きとともに、それらを組み合わせたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①姿勢や方向を変えて、体のバランスをとる動きができる。 ②姿勢や方向、リズムを変えて体を移動する動きができる。 ③用具を操作し、用具に合わせた動きができる。 ④腕の引き方や押し方、重心のかけ方などを変えて力試しの動きができる。 ⑤基本的な動きを組み合わせた動きができる。

(4) 学習過程 (第3学年「多様な動きをつくる運動」)

時	7	8 (本時)	9	10
段階	やってみる			工夫する
学習内容・一単位時間の展開	2分	○あいさつ・めあての確認 (3観点)		※学習の流れ、3観点におけるポイントを掲示する。 (それぞれ重点となる観点を中心に学習を進め
		いろいろな動きをやってみよう	動きを工夫して運動し、できる動きを増やそう	
	5分	○準備運動		
	8分	○力試しの運動		
	24分	○用具を操作する運動 (ボール) ○基本的な動きを組み合わせる運動 (ボール)		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">いろいろな動きをやってみる</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分ができるようになりたい動きに取り組む</div> <ul style="list-style-type: none"> ・進む距離や条件を変えて取り組む (スキップ、ケンケン、後ろ向き、など) ・友達と一緒にできる工夫を考え、移動しながら進む。 (2人一緒のタイミングで捕る、円になって、2人で投げて捕るなど) <p>※学習の状況によっては、場を設定することも可。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠く遠くコーナー ・友達と一緒にコーナー ・プラス○○コーナー <div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>○よい動きを共有する時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ：タイミング・・・始まってすぐ、しばらくたって、動きの広がりがない時 等 ・どこで：共有する対象・・・その場で、集合させて、グループごとで、全体で ・何を：中身・・・3観点の内容について <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ㊦安全に楽しく取り組む姿、進んで運動に取り組む姿 ㊦友達の動きのよさへの気付き ㊦こつをつかんでいる動き、工夫した動き <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; flex-grow: 1;"> <p>よい動きだけでなく、3観点で取り上げる。</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように：取り上げる対象・・・特定児童、一部の児童、全員 等 取り上げ方・・・教師主導、インタビュー形式、友達とのやりとり 等 </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">もう一度取り組む</div>		
	6分	○後片付け・整理運動 ○振り返り (3観点)		
関・意・態	③ ④	②		①
思・判		① ②	② ③	
運動の技能	③ ④ ⑤			④ ⑤
指導と評価の工夫	<p>○「関心・意欲・態度」は、第1時で安全に楽しく取り組んでいるかを評価し、第4時で運動に進んで取り組もうとしているかを評価する。</p> <p>○「思考・判断」は、運動の行い方の工夫の広がりを見取るために連続で評価する。</p> <p>○「運動」は単元の最初に動きが身に付いているかどうか学習状況を把握し、指導の改善に生かす。そして、単元の最後にもう一度評価し、指導の改善によって動きが身に付いたかどうかを評価する。</p>			




(5) 一単位時間の流れ

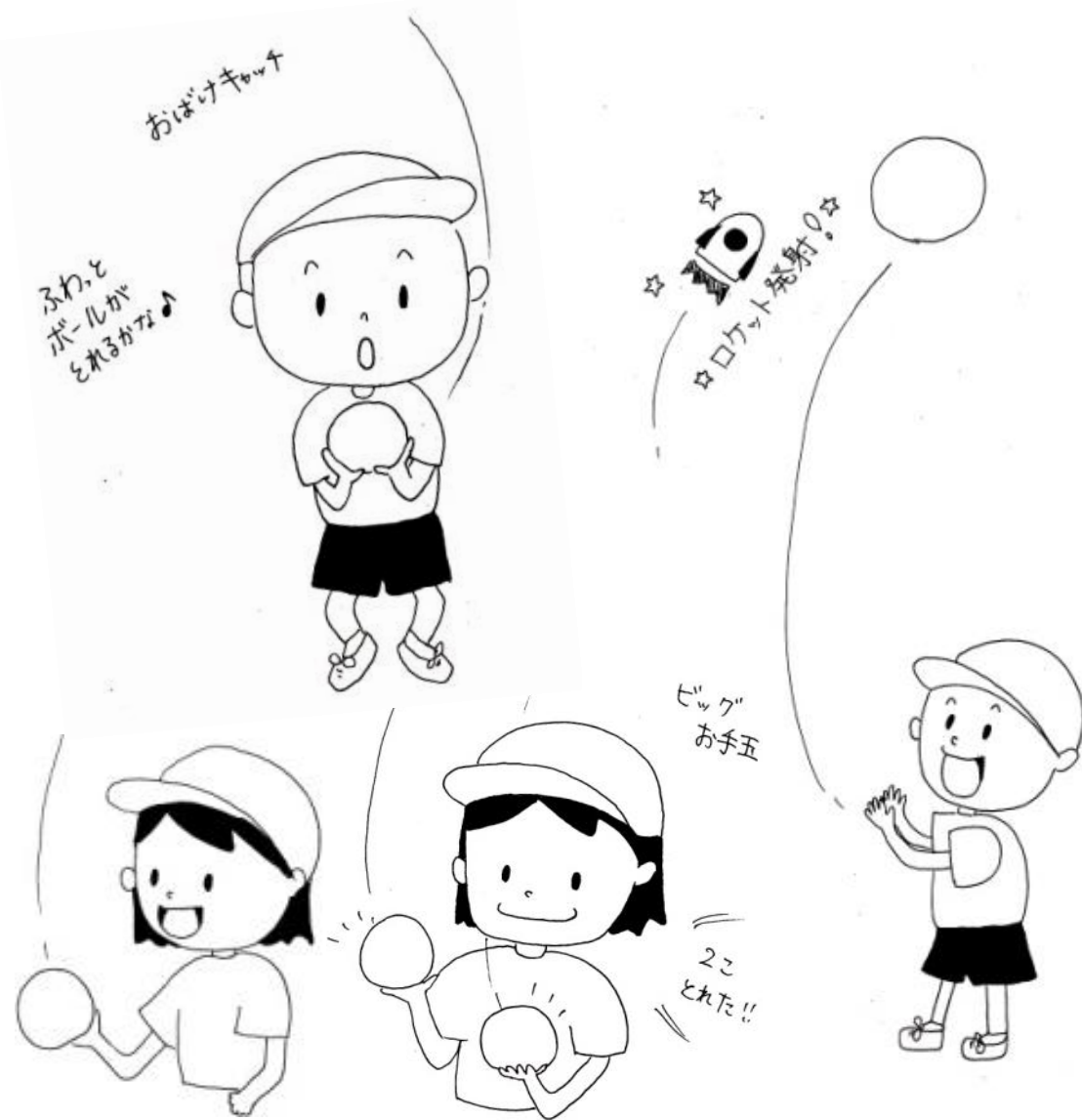
第3学年「多様な動きをつくる運動」(8/18時間)

①本時のねらい

【思考・判断】友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れたりすることができるようにする。

②本時の展開

学習内容・活動	指導のポイント	評価
<p>1 めあてを確認する。</p> <p>動きを工夫して運動し、できる動きを増やそう</p>	<p>○学習の流れを確認するとともに、前時の児童のよかった姿を、【運動】【態度】【思考・判断】の3観点から紹介する。</p> <p>○心と体をスイッチオンできるように、いろいろな動きをして体の部位をほぐす。[主(1)]</p>	
<p>2 準備運動をする。</p>	<p>○よい動きをしている児童を称賛し、ポイントを全体で紹介する。</p> <p>○「いつでも、どこでも、だれとでも」を合言葉に仲よく安全に運動できるように言葉掛けをする。[主(1)]</p>	
<p>3 「力試しの運動」に取り組む。</p> <p>4 「基本的な動きを組み合わせる運動」に取り組む。</p> <p>○ボールを投げ上げて移動して捕る動きをやってみる</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>○めあてをもって取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進む距離や条件を変えて進む。(スキップ、ケンケン、後ろ向き、など) ・友達と一緒にできる工夫を考え、移動しながら進む。 (2人一緒にタイミングで捕る、円になって、2人で投げて捕るなど) <p>※学習の状況によっては、場を設定することも可。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠く遠くコーナー ・友達と一緒にコーナー ・プラス○○コーナー <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎よい動きを共有する時間 [協(1)]</p> <p>いつ：しばらくたって</p> <p>どこで：全体で集合させて</p> <p>何を：友達のよい動きを見付けてこつを聞きあっていることを</p> <p>どのように：一部の児童の友達とのやりとりを見せることで</p> <p>「よい動きを見付けてこつを聞きあっている子を紹介します。なんて言っているか聞いてみましょう。」</p> </div> <p style="text-align: center;"></p> <p>○もう一度取り組む</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎よい動きを共有する時間 [協(1)]</p> <p>いつ：しばらくたって</p> <p>どこで：全員を集合させて</p> <p>何を：友達と一緒に工夫していることを</p> <p>どのように：一部の児童のやりとりを見せることで</p> <p>「友達と一緒に動きを工夫している友達を紹介します。」</p> <p>「一緒に○○をしよう!!」「いいよ!!」</p> </div> <p style="text-align: center;"></p> <p>○もう一度取り組む。</p>	<p>○友達と関わり合ってハイタッチをしたり、アドバイスをし合ったりしている児童を称賛する。[主(1)] [協(2)]</p> <p>○運動する時間を十分に確保する。 [主(2)]</p> <p>○運動の行い方がわからない児童には、掲示物や周りの友達の様子に注目させるようにする。</p> <p>○うまくいかない児童には、動きのポイントについて言葉を掛け、教師も一緒に行い、支援する。</p> <p>○上手な友達を見付けている児童を称賛し、まねしてみるように促す。[協(2)]</p> <p>○運動の途中でよい動きを共有する時間を設定し、動きを工夫している児童を紹介することで、全体に価値付ける。 [協(1)]</p> <p>○友達と一緒に工夫している児童や、友達とこつなどを伝え合っている児童を称賛して、全体で紹介する。[協(2)]</p> <p>○よい動きには、「こつやポイントにつながる」「工夫している」「上手な友達に目を向ける」の視点で紹介する。[協(1)]</p> <p>○やってみよう動きをもう一度取り組む時間も大切にする。[主(2)]</p>	<p>☆運動の行い方を知り、友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れている。</p> <p>【思考・判断】(観察・発言・学習カード)</p>
<p>5 後片付け・整理運動をする。振り返りをする。</p>	<p>○落ち着いてクールダウンをし、使った部位をほぐすように言葉掛けする。</p> <p>○【運動】【思考・判断】【関心・意欲・態度】の3観点でよかったことを振り返る。</p>	



実証授業のご案内

1 日時 平成 29 年 9 月 28 日 (木)
 受付開始 13 : 00 ~
 授業開始 13 : 35 ~

2 会場 墨田区立業平小学校
 墨田区業平 2 丁目 4 番 8 号
 03-3625-0331

京成線 浅草線 半蔵門線 押上駅 下車徒歩 5 分
 東武スカイツリーライン 東京スカイツリー駅 下車徒歩 8 分
 JR 総武線 錦糸町駅 下車徒歩 15 分

3 授業者 2 年生 大野 大輔 教諭 (足立区立綾瀬小学校)
 3 年生 三上 祐典 教諭 (墨田区立業平小学校)



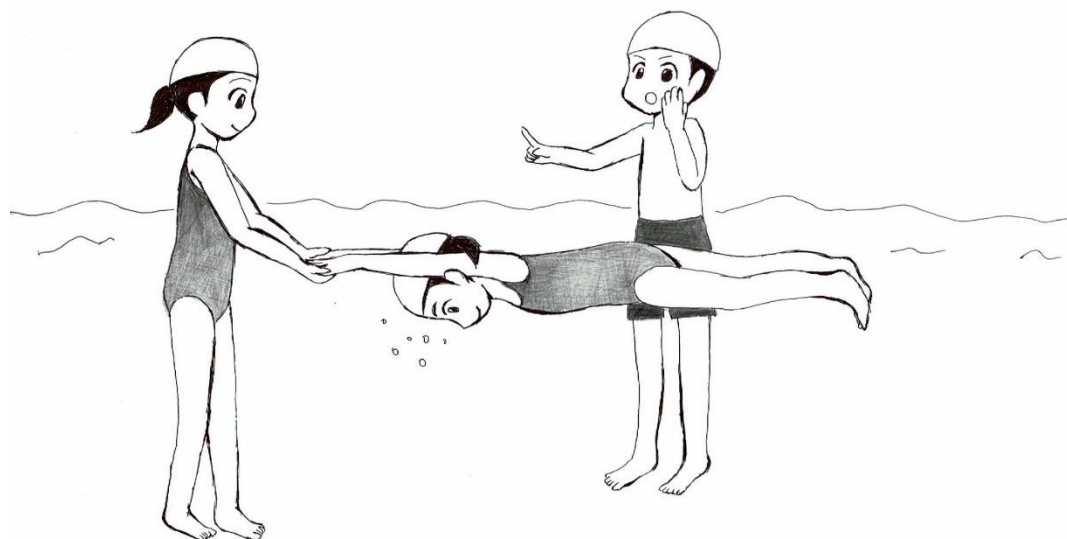
平成29年度 東京都小学校体育研究会 夏季合同研究会

第5学年「水泳」

東京都小学校体育研究会 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、運動や健康についての課題に
主体的・協働的に取り組む児童の育成」

講師 板橋区教育委員会 指導主事 水谷 知由 先生



水泳系領域部 実証授業

授業日 平成29年9月7日(木) 午後1時40分
会場 江戸川区立西葛西小学校 プール他
授業者 吉田 行宏 主任教諭 真坂 祐子 教諭
三木 聡子 主任教諭 石井 大地 主幹教諭

单元名 **「みんなで目指そう!!マイスイム」**

講師 板橋区教育委員会 指導主事 水谷 知由 先生

平成29年8月23日(水) 江東区立豊洲西小学校

1 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成」

2 研究の視点 1 水泳学習における三つの資質・能力の明確化について

本部会では、6年間を通して育まれる水泳学習における三つの資質・能力について以下のようにとらえた。

＜運動領域または保健領域等における三つの資質・能力の学習状況＞

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
運動領域	<ul style="list-style-type: none"> 各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能 各種の運動の行い方に関する基礎的な知識 各種の運動を行うための基本的な技能 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力・判断力・表現力等 自己の能力に適した課題に気付く力 自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度 進んで学習活動に取り組む・約束を守り、公正に行動する 友達と協力して活動する 自分の役割を果たそうとする 友達の考えや取組を認める 安全に気を配る

水泳系領域	<p><1・2年></p> <ul style="list-style-type: none"> 水遊びを楽しく行うための基本的な動きや運動遊びの行い方を理解することができる。 水遊びを通して各種の運動の基礎となる動きを身に付けることができる。 	<p><1・2年></p> <ul style="list-style-type: none"> 水中での運動遊びの場や行い方を選んだり、工夫したりしている。 友達のよい動きを見付けたり、まねしたりしている。 	<p><1・2年></p> <ul style="list-style-type: none"> 水遊びに進んで取り組む 順番や決まりを守り仲よく運動をしようとする。 水遊びの心得を守って安全に気を付けようとしている。
	<p><3・4年></p> <ul style="list-style-type: none"> 浮く・泳ぐ運動を楽しく行うための基本的な動きや各種の運動の行い方を理解することができる。 浮く・泳ぐ運動を楽しく行うための基本的な動きや各種の運動を身に付けることができる。 	<p><3・4年></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の力に合った課題をもっている。 動きを身に付けるための運動の行い方を工夫している。 運動の行い方を他者に伝えている。 	<p><3・4年></p> <ul style="list-style-type: none"> 浮く・泳ぐ運動に進んで取り組む 仲よく運動をしようとする。 浮く・泳ぐ運動の心得を守って安全を確かめようとしている。
	<p><5・6年></p> <ul style="list-style-type: none"> クロール、平泳ぎについて、続けて長く泳ぐための運動の行い方を理解することができる。 クロール、平泳ぎについて、続けて長く泳ぐための基本的な技能を身に付けることができる。 	<p><5・6年></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の力に合った課題をもっている。 課題解決のための練習の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫している。 運動の行い方を他者に伝えている。 	<p><5・6年></p> <ul style="list-style-type: none"> 水泳の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組む 友達と助け合って水泳をしようとしている。 水泳の心得を守って安全に気を配ろうとしている。

それぞれの資質・能力は、単元全体を通して育成、涵養されるものであると考える。単元前半「つかむ段階」と単元後半「取り組む段階」での具体的な学習状況を以下のように設定した。

＜第5学年「水泳」における三つの資質・能力の具体的な学習状況＞

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
つかむ段階	<ul style="list-style-type: none"> 浮く方法、進む方法、呼吸の方法を知る 呼吸しながら進む クロール、平泳ぎで泳ぐ 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に気付き、設定する 解決方法を予想し、考える 比較して考える 自分の考えを伝える 振り返る（相手と、自分と） 	<ul style="list-style-type: none"> やってみたい、挑戦してみたいと思う 粘り強く取り組む 自己の役割を果たす 水泳運動の心得を守る 友達の意見を受け入れる 友達と励まし合う 友達や仲間を認め、共に課題達成、成長する喜びを合う 安全・健康に気を配る
取り組む段階	<ul style="list-style-type: none"> 続けて長く泳ぐ方法を理解する 呼吸しながら進む クロール、平泳ぎで泳ぐ 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に気付き、設定する 練習方法を選択する 解決策を実施する 活動を工夫する 自分の考えを伝える 振り返る 	

3 研究の視点2について

2学年を見通した学習過程を考える。5学年は「課題をつかむ」、6学年は「工夫して課題に取り組む」ことをねらいとする。したがって、5学年においては課題把握、6学年では課題解決に重点を置く。この考え方を基本として、三つの資質・能力をバランスよく育む単元指導計画を作成する。

学年	第5学年		第6学年	
段階	つかむ (1～7)	取り組む (8～10)	つかむ (1～3)	取り組む (4～10)
学習活動	リズム水泳・スイム駅伝		リズム水泳・スイム駅伝・〇分間泳	
	3人組で、続けて長く泳ぐ方法を見付ける	見付けた泳ぎ方に取り組む	課題を把握する	課題を設定し、解決を図るために、3人組で協力して取り組む

4 研究の視点3について

児童の主体的、協働的な学びがより充実したものになるために、児童の気付きを促すような発問、言葉かけを行い、指導と評価の一体化を図る。また、学習カードや学習資料の充実を図り、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の学習状況を見とる手立てとして活用する。また、児童が自ら学ぶことができる学習の手立てとする。

5 研究主題に迫る手立て

バランスよく3つの資質・能力を育む学習を生み出す上で、本部会では以下の手立てを考えた。

- (1) **単元を通して行う小集団学習** 知・技 思, 判, 表 学び, 人間性
単元を通して、泳力が異なる3人での固定された小集団をつくる。それぞれに役割をもって学び合いに取り組む。課題解決に向けてできばえや意見を伝え、励まし合い、助け合うことで、友達や仲間の成長を認め、共に課題達成する喜びを味わえるようにする。
- (2) **オリエンテーションの工夫** 知・技 思, 判, 表 学び, 人間性
 - ・単元始めに設定したオリエンテーションで、教師が以下の内容について指導を行う。
 - 水泳の心得 ●学習の進め方 ●小集団での学び方や場の使い方
→学習への見通しをもてるようにする。
 - ・クロール、平泳ぎを泳ぐ映像を見せ、続けて長く泳ぐための基本的な技能のイメージをもつ。映像を見せる際に、学びをより一層推進するための問いかけをすることで児童自身の気付きが生まれるようにする。また、見付けた泳法のポイントをグループで共有し、第2時からそのポイントが妥当であったかを確認する。さらに、くり返し行うことで運動の行い方を具体的に理解していくようにする。
- (3) **基礎的・基本的な感覚、動きを育む活動の設定(リズム水泳)** 知・技 学び, 人間性
 - ・音楽に合わせ、水をつかむ・押す・浮く・呼吸するといった水中での感覚やクロールや平泳ぎの手の動きやキックにつながる動きを楽しみながら個人やペア、グループで行えるようにする。
- (4) **自己の記録に挑戦する活動の導入(スイム駅伝)** 知・技 学び, 人間性
 - ・毎時間固定の6人組でプールの横(約10m)を、ビート板を使ったばた足で5分間泳ぎ、グループでの泳ぐ距離の伸びを確認するようにする。
- (5) **自己の課題に気付くための課題解決的な学習の導入** 知・技 思, 判, 表
 - ・単元前半では、第1時に自分たちで考えた泳法のポイントを押さえた泳ぎを実践し、別の泳ぎ方と比較することで、自分たちが考えたポイントが正しいかどうかを考える。泳法のポイントを何度も試行錯誤しながら取り組み、検証することで気付き、修正していくようにする。
(例; クロールの手のかきで遠くに手を入れ、ももまでかく際に体の近くからかく、遠くからかくを比べ、どちらがよいか考える。)
 - ・単元後半では、自分たちが見付けたポイントの中から、自分が解決したい課題を選択・設定し、練習方法や泳力に合った場を選択して学び合う。
- (6) **行い方を知り、気付き、伝える学び合いのサイクルの導入** 知・技 思, 判, 表 学び, 人間性
 - 異なる泳力の3人組でそれぞれの課題達成を目指して、役割をもって学び合うようにする。学び合いの流れは常に以下の流れで行う。
 - ①自分に合った課題を立て、やってみる
 - ②仲間から出来栄を教えてもらい、気を付けるポイントを確認する。
 - ③もう一度やってみることで明らかにする。
 - ④次の課題を考える。
- (7) **課題解決や学び合いを促進するための振り返りの工夫** 知・技 思, 判, 表 学び, 人間性
 - ・小集団で学び合いながら課題を解決できるよう、第6時までに作成した泳法のポイントや練習の選択方法を表にまとめ、学び合いの最中にできたかどうかを振り返られるようにする。また、活動後に学習の成果を振り返り、次時につなげられるようにする。

第5学年 体育科学習指導案

日 時：平成29年9月7日（木）

場 所：江戸川区立西葛西小学校 プール

学 級：第5学年 126名

指導者：吉田 行宏 真坂 祐子

三木 聡子 石井 大地

1 単元名 水泳「 みんなで目指そう！！ マイスイム 」

2 単元の目標

技能	クロール、平泳ぎを続けて長く泳ぐことができるようにする。
態度	運動に進んで取り組み、助け合って水泳をしたり、水泳の心得を守って安全に気を配ったりすることができるようにする。
思考・判断	自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫できるようにする。

3 単元及び学習活動に即した評価規準

観 点	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
運動への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 続けて長く泳ぐ楽しさや喜びに触れることができるように、進んで練習に取り組もうとしている。 ・ 友達と助け合いながら協力して練習しようとしている。 ・ 体の調子を確かめてから泳ぐなど水泳の心得を守り、安全を保持することに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 続けて長く泳ぐことができるように、進んで練習に取り組もうとしている。 ② 友達と見合い、助け合いながら協力して練習しようとしている。 ③ 体の調子を確かめてから泳ぐなど水泳の心得を守り、安全を保持することに気を配ろうとしている。
運動についての 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動の行い方や課題解決の仕方を知るとともに、自分の課題にあった練習の場や方法を選び工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① クロールや平泳ぎの泳ぎのポイントを知り、自分の課題を見付けている。 ② 自分の課題に合った練習の場を選んで取り組んでいる。 ③ 友達と動きを見合い、めあてのできばえや課題解決のための助言を伝え合っている。
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ クロールでは、手と足の動きに呼吸を合わせながら、続けて長く泳ぐことができる。 ・ 平泳ぎでは、手と足の動きに呼吸を合わせながら、続けて長く泳ぐことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① クロールで手を左右交互に伸ばして水をかいたり、リズムカルなバタ足をしたりすることができる。 ② クロールで肩のローリングを用いて顔を横に上げて呼吸をし、続けて泳ぐことができる。 ③ 平泳ぎで両手を円を描くように左右に開いて水をかくことができる。 ④ 足の親指を外側に開いて、足裏全体で水を押し出すことができる。 ⑤ 手と足の動きのタイミングを合わせ、呼吸をしながら泳ぐことができる。

4 単元指導計画

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
段階	泳法の行い方を知り、自己の課題をつかむ段階							自己の課題を設定して解決を図る段階				
学習活動・一単位時間の流れ	オリエンテーション 良い泳ぎの映像を見て、泳法の行い方を知る。 ・クロール、平泳ぎ、それぞれに仮説を立てる。(どうしたら、映像のような泳ぎに近づけられるか。) 以下の内容を知る。 ・学習のめあて ・単元の構成 ・1時間の流れ ・グループについて 試しの泳ぎを行う。	感覚づくりの運動「リズム水泳」 ・音楽に合わせて、個人やペア、グループの友達と一緒に、リズムに乗って水泳の基になる動きを楽しむ。 (2～7時) リズム水泳の動きを知り、個人やペア、リズムに乗って動きを楽しむ。							(8～10時) 曲の後半で6人グループになり、動きの一部をグループで考える。リズムに乗って、友達と動きを揃えて楽しむ。			
		今もっている力で取り組む「スイム駅伝」 ・6人グループで行う。 ・5分間行う。 ・プールの横方向を使い、一人片道(10m)ずつ引き継いで泳ぐ。 ・5分間で、合計何m進めたかを数え、毎時間グループでその距離を伸ばすことをめざす。 ・ビート板をバトン代わりにして、引き継いでいく。										
		グループ学習 1時で立てた泳ぎのポイントを確認する。 泳力異質の3人でグループを組んで行う。							グループ学習 個人の課題に取り組む。 前半と同じグループで行う。			
		2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時		
		<泳ぎのポイントを試す1> クロール ・ストローク ・キック ・呼吸、コンビネーション	<泳ぎのポイントを試す2> 平泳ぎ ・ストローク ・キック ・呼吸、コンビネーション	<泳ぎのポイントを共有し、明確にする。> 2～5時で出た気付きを、学年全体で確かめる。 ・クロール 手、足、呼吸 ・平泳ぎ 手、足、呼吸	<課題を見つける> 学年で共有した泳ぎのポイントから、自分の課題を見付ける。	グループでお互いに見合いながら、自分の課題に向けた練習をする。1人が泳ぎ2人が見る。2回泳いだら、交代する。 ①めあてを伝える ②泳ぐ ③助言を受ける ④もう一度泳ぐ	クロール ・ストローク ・キック ・呼吸、コンビネーション	平泳ぎ ・ストローク ・キック ・呼吸、コンビネーション	クロールか平泳ぎを選択 ・ストローク ・キック ・呼吸、コンビネーション			
確かめ泳(各グループで) 1人1分間を泳いでグループ内でめあてのできばえやかき数、泳いだ距離を確認する。												
学習の振り返り: グループで本時の学習を振り返る												
即した評価規準に	態	①③	①③		①②			①				
	思	①	①		①	②③			②③			
	技						①③			②④⑤		

5 本時の学習（本時 9 / 10）

(1) ねらい

- ・平泳ぎの自分の課題に合った場や練習方法を選びながら、課題解決を図る。
- ・友達の課題に合わせて、泳ぎのできばえや解決方法について気付いたことを伝え合う。

(2) 展開

時間	学習活動	◎評価、○教師の支援						
0	1 挨拶・トリオでの人数確認・準備運動・シャワーを浴びる。 2 めあて、本時の流れを確認する。	○児童の健康状態を確認しながら、手、足首、首、関節系を中心に準備運動を行う。 ○シャワーを浴びた後、6人組で1つ、ビート板を用意しておく。						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 友達と協力して、平泳ぎについての自分の課題を解決しよう。 </div>								
7 10	3 リズム水泳「Uptown Funk」を行う。 4 スイム駅伝を行う。 6人組で5分間、プール横10mをビート板をバトン代わりにして泳ぐ。	○進んで運動に取り組めるように、前時よりも協力できているグループを称賛する。 ○前時よりも距離が伸びているグループを称賛する。						
15	5 グループ学習を行う。 平泳ぎの練習に取り組む。グループで交互を見合いながら、自分の泳ぎを練習する。1人が泳ぎ、2人が見る。2回泳いだら交代する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> (1) 自分のめあてを伝える (2) 泳ぐ (3) 助言を受ける・めあてを確かめる (4) もう一度泳ぐ </div> <p>(学習状況に応じた具体的な指導の例)</p>	○コースロープで3つの場に分け、自分の課題に応じて場を選んで泳ぐように伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ロングコース (25m) 長く楽に泳ぐ ・スイムコース (15m) 呼吸法を身に付ける ・プル・キックコース (10m) <div style="margin: 5px 0;"> 場の例 <table border="1" style="display: inline-table; margin-left: 10px;"> <tr> <td style="text-align: center;">←</td> <td style="text-align: center;">ロングコース (長く楽に泳ぐ)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">←</td> <td style="text-align: center;">プル・キックコース</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">←</td> <td style="text-align: center;">スイムコース</td> </tr> </table> </div> ○自分の課題に合った練習方法や場を選び、課題解決に取り組んでいるか。 【思考・判断】 (観察・学習カード)	←	ロングコース (長く楽に泳ぐ)	←	プル・キックコース	←	スイムコース
←	ロングコース (長く楽に泳ぐ)							
←	プル・キックコース							
←	スイムコース							
○気付いたことを伝えられない…教師と一緒に見て、見方を児童に伝えている姿を見せたり、泳ぎの手のかき数を数えたりするよう助言する。 ○練習の場が適切でない…自分のめあてを確認させ、どの場が適切か考えさせる。 ○練習方法が適切でない…泳ぎのポイントや練習選択カードを参考に、適切な選択ができるよう助言する。 ○運動が苦手な児童…陸上や水中で歩きながら動きの確認をする。補助具を使う。 「手をかいて、蹴って、伸びる」などの助言をする								
32	6 確かめ泳を行う。 1人1分間泳で10mを泳いで、互いに見合う。プールで向かい合いの6人組が交互に泳ぐ。計6回行う。めあてのできばえ、かき数、距離等を確認、伝え合う。	◎友達の泳ぎに対してめあてのできばえや解決方法について気付いたことを伝えているか。 【思考・判断】 (観察・学習カード)						
40	7 退水・トリオで人数確認をする。 8 学習の振り返りをする。 9 整理運動・挨拶・シャワーを浴びる。	○課題を解決していたり、協力して課題解決しているグループを取り上げ、その良さを広めるようにする。						

6 資料

(1) 学習カード

水泳学習カード		()グループ		年 組 ()		
	8	9	10			
	/	/	/			
泳姿						
距離	m	m	m			
練習内容	【クロール】	【平泳ぎ】	【クロール】			
			【平泳ぎ】			
課題	課題を解決できたか	◎・○・△	課題を解決できたか	◎・○・△	クロールや平泳ぎが身に付いた	◎・○・△
	友達に伝える	◎・○・△	友達に伝える	◎・○・△	友達に伝える	◎・○・△
	自分に合った練習だったか	◎・○・△	自分に合った練習だったか	◎・○・△		◎・○・△

(2) 練習選択カード

練習選たくカード

課題

足の親指が外側を向かない。
水をはきみ、伸びの姿勢にならない。

ひざがおしりよりも前にきてしまう。

手を肩よりも後ろへかいてしまう。

手足の動きと呼吸のタイミングが合わない。

足をけった後、すぐに手をかいてしまう。

練習方法

①床に座って、足首の形を見ながら練習。
②こしかけかえる足でひざから曲げて練習。

③かべもちかえる足で動きを確認する。
(補助あり→補助なし)

④ビート板を使って、かえる足の練習
(頭上げ→顔つけ)

⑤水面かぶりのかえる足の練習

練習方法

①その場で、手のかきの練習。

②立った状態で「かく」→「地面をける」→「伸びる」→「立つ」
③「けのび」→「かく」→「ける」→「伸びる」→「かく」

④水面かぶりのかえる足の練習。(首つきを入れる)
(ビート板あり→なし)

⑤水面かぶりの平泳ぎの練習。

⑥少ないがき数で泳ぎきる。

続けて長く泳ぐために

(3) 学習カード (第1時で使用)

水泳学習カード 第1時 () 月 () 日 () グループ 年 組 ()

「楽に美しく長く泳ぐ」ためには、どのようにしたらよいだろうか？

<クロール>



A large, empty rounded rectangular box for writing answers related to the crawl stroke.

<平泳ぎ>



A large, empty rounded rectangular box for writing answers related to the breaststroke.

